

「文化の翻訳」を考える  
全国マスジド（モスク）代表者会議有識者会議の記録  
2016年1月29日

December, 2016

早稲田大学多民族・多世代社会研究所  
Institute for Multi-ethnic and Multi-generational Societies, Waseda University  
早稲田大学イスラーム地域研究機構  
Organization for Islamic Area Studies, Waseda University

## 目次

序.....	2
編者.....	3
会議運営者.....	3
編集協力者.....	3
関連研究助成プロジェクト一覧.....	3
会議出席者.....	4
第一部.....	5
第二部.....	46
参考資料.....	116

## 序

本報告書は、2016年1月29日に早稲田大学（早稲田キャンパス）で開催された全国マシジド（モスク）代表者会議有識者会議「『文化の翻訳』を考える」の会議録である。本会議は、2009年に「全国モスク代表者会議」として始まり、2012年に名称を「全国マシジド（モスク）代表者会議」と変更して、継続して開催している。日本人ムスリム有識者をお招きし非公開形式で開催した今回は、主催者側を含め約10名近くの参加者があり、充実した報告と忌憚のない意見交換がなされた。

今回の会議では、全国各地の滞日ムスリム・コミュニティで活躍される改宗日本人ムスリムの方々にお集まりいただき、日本／イスラムというそれぞれ異なる文化的背景を架橋する「文化の翻訳」者ならではの視点から貴重なご経験やご意見を語っていただいた。具体的には①次世代の教育や人間形成、②ハラール認証・ムスリム対応、③非ムスリム社会との関係構築や異文化間理解、文化の伝達（非ムスリムとのコミュニケーションにおける自己表現のあり方など）に関する社会的課題が取り上げられ、認識共有、解決に向けて活発な議論が展開された。本会議録がそのような諸課題の克服に寄与することができれば幸いである。

毎年のことではあるが、会議開催にあたっては、滞日ムスリムの方々をはじめ多くの人たちから多大なご協力をいただいた。これら沢山の皆様に厚く御礼申し上げ、これからのご協力についても改めてお願いする次第である。

2016年12月

岡井 宏文  
店田 廣文

## 編者

(所属は 2016 年 3 月現在)

岡井 宏文 早稲田大学人間科学学術院・助手

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

## 会議運営者

(所属は 2016 年 3 月現在)

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

吉村 武典 早稲田大学イスラーム地域研究機構・次席研究員

岡井 宏文 早稲田大学イスラーム地域研究機構・助手

## 編集協力者

(所属は 2016 年 3 月現在)

小野 亮介 慶應義塾大学大学院文学研究科・博士課程

## 関連研究助成プロジェクト一覧

本会議および本報告書は、以下の研究助成による研究成果の一部である。

- ・ 「人間文化研究機構 (NIHU) プログラム イスラーム地域研究」 (早稲田大学拠点) 研究  
代表者: 桜井 啓子
- ・ 平成27～29 度科学研究費補助金基盤研究 (C) ・ 課題番号15K03886 「滞日ムスリムの生  
活世界の変容とムスリム・コミュニティの持続的発展」 研究代表者: 店田 廣文

## 会議出席者

(50音順・敬称略、所属は2016年3月現在)

岡井 宏文 早稲田大学人間科学学術院・助手  
小野 亮介 慶應義塾大学大学院文学研究科・博士課程  
河田 尚子 ムスリマ互助会アル・アマーナ  
サラ クレシ好美 名古屋モスク・渉外担当  
須見 啓司 札幌マシジド  
店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授  
中村 洋幸 福岡マシジド  
浜中 彰 新居浜マシジド  
前野 直樹 行徳マシジド

議事録の作成にあたり、発言内容を損なわない範囲で、語句の追加や修正、余分な語句の削除や説明の追加などを行った。聞き取りの困難なところについては、一部削除したところもある。編者が説明として追加した部分や注記は、( ) で明示した。なお、本文・脚注中の URL への最終アクセス日は全て 2016 年 11 月 22 日である。

## 第一部

店田 今回はお忙しいところを、雪がまた降りそうななかで、遠くからお集まりいただきありがとうございます。

今日は代表者会議の有識者懇談会ということで、クローズド、つまり非公開でやるという形なんです。お願い状に書きましたように、「文化の翻訳」というのをテーマにして、一つは次世代のイスラムの教育や人間形成に関する課題、それからハラール認証、イスラム対応に関する課題、それから 3 番目に地域あるいは非イスラム社会との関係構築や異文化理解ということに関して、これら三つの課題について皆さんのいろんなご意見あるいはディスカッションをお願いしたいということで企画しました。



司会：店田廣文（早稲田大学）

今回は、改宗された日本人のイスラムの方だけにお集まりいただいて、お話をさせていただくということなんです。その意図は、やはり日本とイスラム社会、あるいは日本人と

ムスリムというこの二つの間の架橋、あるいは互いの文化を翻訳していく上ですね、改宗日本人ムスリムという方々の役割が非常に大きいのではないかと考えておりますので、そういう点で皆さんのご経験あるいはご意見を基にいろいろ議論ができればというふうに考えております。

それで今日は、最初にどういう形で進めようかというのを考えてみましたところ、昨年ヤングムスリムのことをやったんですが、第1番目の課題として先ほど申した次世代ムスリムの教育や人間形成ということがありましたので、それから入っていきたいと思います。

まず今年の会議<sup>1</sup>を受けて、会議の中で話し足りなかったこともあると思うんです。だから会議で話されたことを受けて、その後ですね、いろいろ展開したいこと、あるいはお考えになったこともあると思うので、その辺りからまずちょっと前野さんに口火を切っていただこうかなというふうに考えております。

前野 私？

店田 こういう小さな会議なので、今ちょっと私もしゃべっていて、大きな会議でしゃべっているような雰囲気になってしまったんですが、気軽にしゃべるような感じで構いませんので、ご意見あるいはいろんなお話、お考えをいただければと思います。お願いします。

前野 皆さん、アッサラーム・アレイクム。よろしく申し上げます。今年の会議で紹介させていただきました寸劇のテーマは、まあはっきり分かる、見る人が見れば分かると思いますが、暗に、ISを批判するものでした<sup>2</sup>。で、あの頃はまだ割りと訴求力があつたといえますか、そちらになびいてしまう、きちんと勉強していないムスリム、若者も見られたので、今後の将来を懸念して、それを批判する形での内容を作品に盛り込んだつもりだったんですが。その後、きゃつらのなりわいの酷さといえますか、自明の理なんですが、はっきりといかにあれがイスラムとは無関係なものか、おかしいものかっていったことを見せるようになってきましたので、それほど彼らが放っていたようなメッセージには危険性は感じられなくなってきたことと思います。そのように感じました。

ただ一点、A先生が書いてらっしゃるものでは、きちんと「自分が唱えているのは彼らとは違う」と。まあ、はっきり言ってくださっています。

まあ、さはさりながら、あれがいかにおかしいかっていうことは、自明の理となっているので、その辺については今後の次世代教育における懸念事項としては安心できるように

---

<sup>1</sup> 第7回全国マシド会議：ヤングムスリムの将来設計

<http://imemgs.com/activity.html#workshop>

<sup>2</sup> 早稲田大学アジア・ムスリム研究所、早稲田大学多民族・多世代社会研究所、早稲田大学イスラーム地域研究機構編『「ヤングムスリムの将来設計—学ぶ・はたらく・生きる—」第7回全国マシド（モスク）代表者会議の記録』pp. 15-20.

なったかなと思う次第です。



前野直樹氏（行徳マスコ）

続いてはですね、別のトピックになりますが、店田先生がテーマとして踏まえていただければということでは、「文化の翻訳」という話で、「待ってました」という感じなんです。

私自身もまさに「文化の翻訳」といいますか、自分が学ばせていただいていたイスラム学、そのイスラムの教えというものを、ただ単に輸入するのではなくていかに日本の文化がイスラムから外れない形でコラボしていけるかということを念頭に、モットーにして活動させていただいておりますので、その中で子どもたち向けの教育活動の中で出されてきた教材といったものがささやかではありますけど少しございます。

一つは「ナシード」というイスラムの宗教的な歌です。まだコピーができてなくて上がってないですが、今コピーしていただいておりますので、すみません今しばらくお待ちください。私ので恐縮ですが、回していただければと思いますが。ちょっとすみません。かつてと言いましたが、今でも伝統的な教授法として続けている所では続けていると思いますが、論語の素読であったりですとか、萩の明倫館。日本の私塾では大事なことでいうものを声に出して、こう子どもたちに声に出させて読み上げるっていう教育法をしてまいりました。それをイスラム学においても、浜中さんなどよくご存じでしょうが、ウラマー、イスラムの先生たちは、各学問の教えのエッセンスを詩、歌の形にまとめられて、生徒が、それを学ぶ人が覚えやすいような形で残してこられてるんですね。



それをまとめられたら面白いなと思ひまして、このように 30 本、五七五七七の短歌調でまとめて…。

サラ すごい。

前野 これをカルタにしました。



図 1 イスラムかるた (資料提供：前野氏)

浜中 すごいですねそれ。

前野 やはり短歌調にして読み聞かせて、書き取りの授業なんかすることに対しても子どもたちの反応は割りといいです。で、さらにカルタでゲームにして実際にやらせると、もっと反応は良くなりました。ということで何かお役に立てればありがたいです。

店田 はい、ありがとうございます。新しいことに懸けるといふか、イスラムを日本に根付かせていく上での、前野さんのお考えになった新しい試みですが。

浜中 なかなかすごいですね、考えますね。

店田 これ実際にいつ頃から始められているんですか。

前野 このイスラムを短歌に、っていうのはもう1年以上たちます。1年半から2年目ぐらいです。でもカルタの形にしたのはようやくつい最近です。「ナシード」については2010年ぐらいですかね。2010年から、いわゆる週末学校で。私が主体的に始めたものですから、そこから始めておりまして、1年に1曲、2曲のペースで。ついに13曲までできちゃったというですね。

浜中 これすごいですね。

店田 これ年齢的にはどのぐらいのお子さんというか。

前野 基本は小学生がメインです。ただし誰でも親子、お願い条件としては親子同伴で、両親ではなくともどちらかの親御さんで結構ですから、お願いしますというふうにしていますので、そういった形であれば、もう未就学児から、幼児から、中高生に至るまで。中高生は保護者なしでも結構ですが、小学生はですね。

といいますのは、私自身がヒラーで、行徳のマスジドで行われていたイブニングスクールを見るにつけ、そこに連れてこられる子どもたちが、平日の話ですからさもありなん、で仕方がないんですが、いかにも「親に連れて来させられました」みたいな、疲れ切った顔をして、やる気のない顔をしているのを見てですね、これじゃマスジドに来るのが嫌になっちゃいはいしないだろうかという懸念を覚えましたので。

それは自分の子どもたちに照らし合わせて嫌だなと思ひまして、できればマスジドに来るのは楽しいことなんだという思い、楽しい思い出作りのためにと言いますか、そういった気持ちで。

また親にとってもすごくそういった活動は行徳に限らず、人任せの所がすごく見られる所がありまして、「イマームに、先生に任せとけばそれで安心」みたいな。「そうじゃないでしょ」って。家庭が一番大事なわけですから。なので、子どもたちへの教育はまず親の責任で、皆で持ちましようという気持ちからですね、親子学校ということにしています。

浜中 すごい、すごいことですよ、これ。

前野 いやーいやいや。

浜中 他のマスジドではほとんどやってない。大塚とかはどんなのやっていますかね。

前野 大塚は…。でも素晴らしいのは、クルアーンの暗記を必ずやっています。

浜中 ああ、やっていますよね。

前野 すごいですよね、あのレベルは。

浜中 それ以外の Masjid って、まずここら辺りまで全然考えてないと思うんですがね。

前野 うん。

浜中 これはすごいと思いますね。本当にこれきっかけで、どんどん。

前野 浜中さん後で一緒にやりませんか？

浜中 え、え？カルタですか？いやもう、本気でやりますが。

前野 楽しいですよ。

浜中 (笑)。いやいや、ほんとこれすごいと思うんですよ。

店田 今浜中さんが仰ったように、他のモスクではどうなのかっていうことだったんですが、どういうことなんですかね、今、子ども教育、そういう小学生を対象にして教育というのがいろいろ行われていることは分かるんですが、具体的にどういうレベルって言えばいいんですかね、どういうものが実際なされているのかっていう。

浜中 そうですね、うちの例からしたら、というか松山 Masjid の例からしたらですね、ほとんどが留学生の子どもたちで、日曜の朝集まってきて、コーラン読みを教えるぐらいのところですね。

こういう工夫とか全然されてないんですが、確かに親が行けつつうんでやって来て、コーラン読みをイマームに教えてもらおうと。終わったら、一緒に食事食べて解散というのを、それを毎週やっているだけでもいいかなと思うんですがね。

店田 ああ、なるほど。

浜中 もうそんなところだと思います。もうちょっと大きな Masjid だったら、福岡とかもうちょっとやっているんじゃないですか？

中村 一応、日曜日の午前中にアラビア語クラス、クルアーン・クラス、イスラーム・クラスという形で。先生は日本人が。

浜中 ああ。

中村 日本の女性とかがやっています。もちろん、アラビア語に関してはアラビア語の。

浜中 アラブ。

中村 アラブ系の人がいいんですが、いろいろ試行錯誤しながらやっているみたいです。

浜中 福岡も結構いろいろやっているのが、Facebook で見て大体分かったんですが。

中村 あと平日はクルアーン・クラスとって、これはもうアラブ系の人で先生で、クルアーンを覚えると。まずアルファベットを覚えて、そしてクルアーンを覚えるということは週2回やっております。

浜中 それ子どもたち？

中村 子どもたちだけです。「大人もやってくれ」と言ってんですが、ちょっと…。子どもたち向けにやっています。

店田 神戸なんかはどんな感じですか。

河田 私はモスクにあまり関係してないので、今モスクでちょっとどういう状況か、今現在の状況がよく分からないんですが、一時ちょっとちらっと伺ったのが、先生がパキスタンの方で、ウルドゥー語が飛び交っていて、ウルドゥー語ができないとあまり行っても意味がないようで、「うちの子は行かせてない」という話を聞いたんですね。その後ちょっとどうなっているのかよく分からないんですが。

でも私、今までいろいろ以前、まだ私がモスクに関わっていた頃に、ちょっと子どものクラスを教えさせていただくお手伝いをしたりしたことがあるんですが、子どもの教育って、片手間にはできないっていうか。子どもが投げ掛けてくる質問を、何ていうんですかね、本当に信仰に直結するような質問も投げてこられるし、それに対して子どもが分かるように教えてあげないといけないし。



河田尚子氏（アル・アマーナ）

だから何ていうのかな、片手間にはできないなって。全身全霊でやらないと、本当に良くないなと思うんですが。よく「子どもの学校を、イスラムの学校を作りましょう」みたいな話は聞くんですが、本当にスタッフの方をどうするかってということが全然考えられてなくて。よく聞くのが、アラビア語ができたり、クルアーンが読めたりするお母さんを先生にして、そのお母さんに教えてもらおうみたいな。もうその人に丸投げ、みたいな話もちよっとちらちら聞いたりして。その丸投げされたお母さんが「私に丸投げされても…」みたいな悩みを打ち明けられたりとか。そういう経験もありますので、まずは先生をちゃんと養成するって言ったら変ですが…。

やっぱり先生の問題ってすごく大事だと思うんです。子どもたちがやっぱり魅力を感じる先生みたいな。私なんかもよく教えるんですが、私どうもあまり子ども受けは良くなって（苦笑）。で、「ヤスミン先生なんか嫌だ～」とか言われたりするんですよ（笑）。

浜中 何ちゅう（笑）。

河田 やっぱりそういう、子どもが「この先生大好き～」みたいな、そういう魅力も必要だと思いますし。だから知識さえあればいいっていうもんでもないし。でももちろん知識はないといけないし。子どもたちがやっぱり、それこそさっきの話じゃないですが、親に

無理やり連れてこられて、私も実際「なんで学校へ行ってる上に、土曜日まで勉強をしなくちゃいけないの？」って、もう半泣きになっている子どもたちも何人も見ましたし。そういう子たちに、「アッラーが喜ぶからねー」とか言いながら、もう宥め宥めやったりする経験をたくさんしてきていますので。だから前野さんのように、教材のこともいろいろ考えてっていう先生がいらっしゃる所はいいんですが、そうじゃない所でやっていくのってすごく大変じゃないかなと思います。自分の経験から。

浜中 人材がないんですよね。

河田 はい。

前野 それぞれ合いの手入れたりしてもいいんですか？

店田 ああどうぞ、どうぞ。

前野 ご質問でよろしいですか？

河田 はい。

前野 河田先生は「アマーナ」っていう女性総合支援の会ですよね。

河田 まあ総合支援って言ったら、ちょっとあれなんですけど。

前野 逆に女性の集まりの場だからこそ、子どもたちと一緒に来たりして、子ども教育に携わる、携われるっていうことはないんですかね？

河田 モスクじゃないので。

前野 その、それこそお母さんが。

河田 モスクだったら、例えば子どもを連れてきたりとか、そういうのもあると思うんですが、やっぱり女性の、大人の勉強会なので。

前野 はあ、なるほど。

河田 子どもを連れてきて、子どもがドタバタして、「あ、大変だ」みたいな。だから逆に

私の勉強会とかだと…。

前野 みんな自粛して連れてこないんですね。

河田 基本、子どもがいない人、もう既に大きく育ってしまった人、子どもは連れてこないというパターンが多くて。

前野 そうなんですね。

河田 はい、だから子どもは子どものクラスを作って、「子どもクラス」みたいなのをやっ  
てはいるんですが。

浜中 ずっと以前、6、7年前にマレーシア人が日曜学校みたいなのをやっていたと思うん  
ですが。

河田 それはどちらでしょうか、大阪のほうですか？

浜中 いや、神戸 Masjid です。

河田 神戸モスクの場合、いろいろ入れ替わると言うんですよ。

浜中 ああ。

前野 B 姉妹なんかは。

河田 B さんたちも結局負担が大きいんですよ、あの方々に対する。だから B さんご姉妹  
は大人の勉強会もやってらっしゃるし、子どもの勉強会も一時やってらっしゃったと思う  
んですが。

前野 そうですね。

河田 結局、全部 B 姉妹に負担がかかってきちゃって、ちょっとお体悪くされたりとか。

前野 あ、そうなんですか。

河田 で、マレーシア人の方は多分留学生の方かなんかであったと思いますが。

浜中 留学生、神戸大学行って、はい。

河田 でも結局留学生の方だと、もういらっしゃらなくなるんですよね。

浜中 いつかはなくなるんですよね。

河田 はい。

浜中 それまで何回か僕も行って、見学しに行って、いろんな教材作っていたんですが。

河田 はい。

浜中 それでホームページも作っていて、「ああ、頑張ってるね」みたいなことで。

河田 だからそれがずっと続いてくればいいんですが。

浜中 そうですね、それで帰ってしまったら…。それで終わったのではないかなと思うんですが。

河田 引き継ぎっていうのもできない、できてないですし。

浜中 そうですね。

河田 その方々はすごく熱心にやってくださって、その時はいいのですが。

浜中 そうですね、3年ぐらいはやっていたと思うし。結構いろいろ教材作っていたと思うんですよ。

河田 それは別に子どもだけに限らず大人の勉強でも、近所の留学生の方に教えていただいて、クルアーンの勉強とかしていても、その方々が国へ帰られたらもう…。

浜中 確かに留学生はそうなりますね。熱心な方がいてすごく良くても、いなくなったら確かに人材育成は…。

河田 だから、さっきの前野先生の話に戻るんですが、大人の勉強会をする時に、誰か子



どもの面倒を見てくれる人がいればいいんですが。私も一度、「インドネシア人の方とか、ベビーシッターで雇ったら？」みたいなことを言われたんですが。でもインドネシア人の方はインドネシア人の方で、「なんかうまく使われてるみたいな気がする」みたいなことを仰る方がいらっしやって。

前野 はあ。

河田 なんかやっぱり、「じゃあちょっと子どもの面倒見といてね」みたいな感じで預けられて、っていうような。

前野 それはアルバイトとして、パートとしてもですか？

河田 うーん、だからそこでお金を払うっていうアイデアが、その時にはなかったっていうような感じなんです。それはやっぱりまずいですよね～（苦笑）。

前野 仕事として依頼しないとまずいでしょうね。そういうの、だからいいように使われているような感じなんじゃないですか？

河田 うーん。で、そのインドネシア人の方も、自分も大人の勉強会聞きたいみたいな方もいらっしやるし。

店田 まあ、教えるローテーションを組む感じですかね。

河田 そうですね、はい。

店田 教員資格じゃないですが、そういった先生の育成というか、それについてもこれまでの会議でもね、何度もそういうことが出てきたと思うんですが。多分、どこのモスクでも同じ悩みを抱えているんじゃないかと思うんですが、札幌なんかはやっぱり留学生が中心ですが、どうなんですかね？

須見 札幌はですね、子ども向けはエジプト人が結構、そういう子ども向けのお勉強とかでも関心があるので、エジプト人が中心になって、毎週1回子ども向けにクルアーンの読み方の勉強会をしております。あと6年前でしたっけ、前野さんを札幌に一度呼びして、行徳でやっている子ども教室を札幌と小樽のマスジドでやってみてですね、ちょっとした時間さえ作れば、自分たちでできるっていうのを披露してもらってね、やったんですが。子どもたちにはすごく評判良かったですよ。「また見たい、モスク面白かった」とかですね。



須見啓司氏（札幌マスコ）

ただ、それをやる親たちがですね、結局できないと（苦笑）。で、子どもたちから、前野さんが帰った後に「来週はやんないの？」ってかなり言われたらしくて。で、大人たちが、その時に「じゃあ僕が」って言う人が全くなくて、何を僕に言ったかという、「また前野さん呼んでくれ」とかですね（一同笑）。全く人任せになっちゃうっていう。それ以降続いてないという現実が。それで、留学生のお子さんたちがちょうど今、小学生の後半ぐらいになったんで、できればやってほしいと。だから、私も昔、「勉強会の先生に」と言われて、自分も学生のつもりで前野さんの訳した本とかですね、週に1回、1ページか2ページ声を出してみんなで読んだりとかですね、解説したりとかっていうのをしていたので。そういう本があれば、各地のモスクでもやりやすいんじゃないかなと思います。

前野 うちもありますよ、そういうの。ハビーバ先生が残されたイスラム学習の本とか。あるにはあるわけですが。幾つかの小学生向けの授業はですね、イスラムの大学を卒業してなくてもよろしいんで。

須見 あとやる気の問題ですよ、親たちの（苦笑）。

前野 いや、お兄さんがやってくれてもいいですよ、別に（笑）。

須見 子どもはちょっと慣れてない（苦笑）。

店田 まあさっきあったように、子どもに好かれる先生じゃないと（笑）。

河田 フフッ。

店田 教科書は例えば全国的に統一して使えるようなものが？

前野 いえ、全然広まってないです。まあ広まってはないですね。

店田 そうなんですか。

浜中 それを使うような状況になれば、絶対もらいたいと思うんですが、うちらみみたいな田舎だと、使うような状況にいつまでたってもならないんですよね。まず、まあどう言ったらいいんでしょうかね、すごく多いのが、うち愛媛県ですが、まあ松山が一番おりますが、ほとんど留学生。それ以外に留学生じゃない、国際結婚している、主にインドネシアとマレーシア、インドネシアと日本人の結婚っていうのが多いんですが。だからまず、親自体、日本人側の親が、まずイスラムとは思えないような人が非常に多いんですね。結婚のために入信したという。もちろんその子どもたちっていうのは、もう普通の日本人と変わらない。ちょっとした違いはありますが。中にはちょっとこう、「イスラムの勉強をさせようかな」という興味のある人もいますが、まず親たちをモスクに呼ぶとか、こういうモスクが敷居が高ければ、どっかでね食事会でみんなで交流でもまずやろうという、今そういう段階なんです。まだ他のマシドとは全然レベルが違う状況かなと。

で、まず父親たちに少しでもこうイスラムのことを理解してもらうのと、できたら子どもたちが集まった時に何かこう楽しいことをやれたらという、まだその段階ですね。だから愛媛大学があるすぐそばの松山マシドでは、さっき言ったように日曜の朝コーラン読みの勉強やっていますが、彼らはもう一時的ですからね。来てもほとんど2年とか3年で帰ってしまうので、その間だけのコーランの勉強。もともと子どもたちも、まあまあレベルが高い子どもたちが多いで…。そんな状況なんですよ。だからもし、まあ松山でも新居浜でも教材が使えるように、子どもたちがちょっとでも集まれば、思いっきり活用させていただこうと思うんですが、今のところそれを活用する状況ではない。



浜中彰氏（新居浜マَسジド）

店田 その前の段階で。

浜中 もう全然ね。何をしようかという状況ですね。先週、日本人とインドネシア人のカップルの食事会みたいなんで集まってもらったんですが、五家族来たんなんですが、やっぱり日本人の人は、なんですかね、行きたくないというような。もちろんイスラムって言ったら来ないでしょうから、なんかちょっと違う形でやったんですが、それでもやっぱり集まりたくないみたいな形でしたね。

まあそういう、うちみたいな所のほうが、逆に多いかしらんとは思いますかね、各地方のマَسジドは…。という状況なんです。

店田 まあ、そういう地域もあるし、もう少しそれとは違った、例えば行徳のようにやってらっしゃるようなのもあると思うんですが。例えばそういういろんな地域差というか、そういうものはあるにしても、例えば教科書ということ考えた場合に、もしそういうものが必要になった場合に、それを率先してやるのはやっぱり日本ムスリム協会とかそういう所ですか？

前野 だといいいんですがね（笑）。

浜中 いやー、今だったら、例えばどっかが出してればそれを引っ張ってくると思いますがね。例えば行徳で、こんなのやっていますっていうのをずっと出したり、教材とかがネットに載ってれば、それをそのままコピーして使ったり、それをそのまま見せてもらって…。

店田 ネット上にそういう教科書を、まあ PDF かなんかで置いていただければ、それを全国的に共通して使えるとか、そういうことですか？

浜中 教材とかパンフレットはもう、大抵ネット上で引っ張ってきて使っているのが多いですよ。で、僕らもちょっと目通して、「あ、～～が出してる教材いいですよ」とか言って紹介するぐらい。

店田 どうなんですかね、カリキュラムと言うとちょっと大げさになるんですが、子どものためには段階的にやっていくのもあると思うんですが、そういうのは何か。

浜中 そうなのがあれば、最高にいいですよ。

前野 いいですがね、外国のは、すぐそのまま持ってこられないんですね。

浜中 それはみんなに考えてもらうしかないんで。また前野さんお願いしますっていう感じになりそうですが（笑）。

前野 いやいや、行徳が理想的だと誤解されても困りますので（苦笑）。僕が、付け足しておきますと、そもそも行徳の週末学校は、まずは自分の子どもたちのためにと始めてたんです。いかんせん親が先生やっているから、子どもがなめてかかってんのかどうか分かんないんですが。

浜中 ああ、なるほど。

前野 うちの子どもたち自身がですね、積極的に参加する子たちじゃなくなってしまっているのですね（苦笑）。

浜中 あるかしらんだな、それ（苦笑）。

河田 フフフッ。

前野 参加したら参加したで、騒がしくしたりですとか、やっぱりかなり悩ましいんですよ。一番上の娘は小6で、参加してくれていますが、理想的には、一応メインが小学生向けですから、今度中学生になるお姉ちゃんであれば、例えば積極的な活発な子でしたら、自分が今度は教える側に立つとかですね、そういう引き継ぎができていくものすごく理想的なんですけど、なかなかそうは…。

浜中 やっぱり自分の子どもが行くから、指導も励みが出ると思うので、いいと思いますね。うちなんか今、子どもがみんな大きくなったから、何も。

前野 では今度はお孫さんのためによろしくお願いしますね。

浜中 そうなんですよ、孫ができるんですが。

河田 大賛成。

浜中 本当に時代が時代で、自分たちの子どもには全然教育できなかったの。

店田 ちょっと話は違いますが、名古屋は結構進んでいるような気がするんですが。

サラ お答えする前にちょっとすみません、私どこをどういうふうについていいか分からなくて、今付いていけないんですが。まず「ヤングムスリム」というテーマですね。で、そのヤングムスリムの定義が今できてない状態だと思うんですが。小学生を今ターゲットにしているような雰囲気、今お話が進んでいるのかなという…

店田 そうですね、今、はい。

サラ 小学生についてということですか？

店田 ええ、まずそこで話をしていただければ。

サラ なるほど、小学生で。分かりました、えーっとですね、名古屋は、実は私、ここで多分線が引くことができる、私だけ違うポジションだと思うんですが。要するに私は当事者なんです。

当事者っていうのは要するに、さっき浜中さんが仰った、結婚のためにムスリムになったっていうその口ですし、嫌々、泣く泣く、無理やり、しょうがなく入ったような（一同笑）、そういう女性ばかりが集まっていた。まあ、そういう女性が名古屋にいっぱい、ポツ

ンポツンといたんです。

それを、まずそのままではどうにもならないので、23年前にまだモスクがなかったので、私の家に集めてお茶会を始めました。「イスラムをやろう」って言うと、先生が仰ったように集まらないです。誰も嫌です。私も呼ばれても行きたくないです。当時の私は。

ですから、まずお茶会をしよう、と。もう傷なめ合うのでも何でもいいので、とにかく「なんでこんな所に、大変なの?」、「ラーメン食べたいよね」っていうそんな話でもいいので、イスラムじゃなくて、とにかく同じ境遇の人たちが集まって情報交換ができれば、苦しい時でも一人だと、「私だけなんでこんな目に遭わなきゃいけないの?」って。親に相談すると「だからやめなさいって言ったでしょ」、友達に言う「離婚しちゃえばいいじゃない」、簡単なんですよ、答えが。

でもそんな簡単ではないから私たちは困っているわけで、そういう仲間が集まることによって私たちは強くなれたんです。23年前本当に会うとみんなが泣いていました。誰かがもうポツンとなんか愚痴をこぼして泣くと、こっちでもみんな泣き始めて。みんな分かるんです。「そうなんだよね」って言いながらポロポロ泣くんです、みんな。

で、そうやってお茶会をし、そうやっている内にみんな子どもができ、その子どもたちが大きくなった頃に、14年前に今度は私は幼稚園（キッズハウス名古屋インターナショナルプリスクール）を始めました。ムスリムの子どもたちのために。そういった子どもたち、そのお茶会のメンバーのお子さんたちがちょうど学齢期だったので、ちょうど2歳から5歳ぐらいだったので、その子たちを集めて幼稚園を作りました。で、その中でイスラム、イスラムじゃなくて、これもまた子どもたちにも自分たちのアイデンティティをちゃんと確立できるように、ムスリムであることが堂々と言えるように、っていうような、何気ない遊びの中からイスラムを自分で意識できるような状況を作ろうという幼稚園を作りました。

その後、その子たちが今15~16歳になっておりまして、ちょっと今から小学生の話をするにはもう飛んでしまっているんですが。当事者として言うと、まずお母さん自身が大変でした。本当に大変でした。そういう意味で日本人の女性をまず助けてあげてほしいです。

このお母さんが、うまく自分の信仰を確立できれば、自信を持ってムスリムなんだっていうふうになってくれば、嫌々だけど。入ったのはみんな嫌々です。ほとんどの人がみんななそうでした。だけどみんな強くなりました。「一人じゃないんだ」って思った時に強くなって、「じゃあ自分の子どもを守らなきゃいけない」、「子どもも嫌々じゃかわいそうだ」、「じゃあ子どもに何を教えようか」、「子どもにも仲間作りをさせよう」ってなってくるんです。

そうすると、今度子ども同士を集めます。で、幼稚園ができました。で、その幼稚園でまた仲間ができた。その仲間が今は違う中学校、違う高校に行っているが、毎週土曜日には集まるんです。ごめんなさい、小学校の話はちょっと飛ばしてしまいましたが。

店田 ああ、いいですよ。小学校に限らず。

サラ 後で触れますが、その中高生の集まりは実は1年半前の夏、初めて始めました。それはやっぱり中学生の男の子がたまたま、一人のお母さんがやっぱりこぼしていて、お茶を一緒に飲みながら、うちの子は自分のことが認められない、自己否定の固まりで、暗くて、学校に行っても、色の白いパキスタンの北のほうのお子さんなので、学校で「おまえ何人？」って、明らかに顔が違うので、聞かれると「アメリカ人」って答えている、と。

要するに、パキスタンっていうとイスラムを連想されるから隠しているんですね、国籍を。そういう子どもの話を聞いて、たまたま家でご飯を食べている時に、うちちょうどその時小学校、中学校、高校、大学ぐらいの子どもがいたんですが、四人。で、「～～くんって自分のことをアメリカ人って言ってるんだって」って笑って話題にしようと思ったら、次男が、アミンが、「俺スペイン人って言ってるな」って言うんですね。

浜中 ハハハッ。

河田 出た。

サラ 「え？」って。私、よその人の話と思って、まあ笑いのネタにしようと思って食事時に話したら。

店田 なるほど。

サラ 「あなたも隠してたの？」っていう。「そりゃあだって、言えるわけじゃない」って。そしたら長男が「分かる、分かる」って言うんですね。もしかしてうちの子どもたちもみんな隠しているんだって。

ちょっとさっき桜井先生にご紹介しようと思って、そこにポツンと座っていた三男が、やっぱり彼は中学校、高校、6年間、ずっとイスラムをひた隠しに隠して、「授業参観には来るな」、「文化祭へ来るな」、「体育祭に来るな」。それから食事を伴うイベント、ハラルじゃないとばれちゃうので、テーブルマナーもキャンプも、調理実習も全部欠席して、とにかくムスリムだっていうことがばれないように6年間、何とか隠し通してもうすぐ卒業なんです。

そういう子どもたちが今、名古屋には、恐らく皆さんの地域もかもしれないですが、いるんですよ。こういう子どもたちを抱えているお母さんとしての、当事者としての私たちはどうしたらいいか。

教科書がとか、教材がとかっていうレベルではないんです。何とかしてこの子たちを、ムスリムだっていうアイデンティティを否定し続けている子どもたちに、もっと堂々と「自



分がムスリムだ」って言えるようにしてあげないといけない。ムスリム同士の仲間作りをしなきゃいけない。

私が23年前に女性を集めて、もうみんな泣いていた人たちが強くなったように、子どもたちも集めよう。それがきっかけで1年半前に、中高生のお茶会を始めました。当時中学生しかいなかったんですが、8月に始めたことなので、もうすぐ高校生になるので、会の名前は「中高生のお茶会」にしよう。今現在高校1年生が一番分厚い層です。それが、私がやっていた幼稚園に来ていた子どもたちです。

この子たちを中心に、その時いなかった子どもたち、留学生のお子さんとかいろんな人たちが集まって今、中高生のグループができて。モスクのコミュニティ・ルームっていう所があって、そこにパーティションを置いて、奥が女の子たち、お菓子を並べて、みんなでおしゃべりしています。男の子のほうは、ちっちゃい布のボールでサッカーしたり、卓球やったり、もう好き勝手遊んでいます。誰も来てない時は宿題やっている子もいます。何でもいいんです。イスラムの勉強には来なくていいんです。そんなことをさせるためではないです。とにかく自分がムスリムだっていうことが認められるようにしたいんです、私は。

皆さん方は、特に男性の方ってやっぱり頭から、理性的に考えていかれると思うので、「勉強させなきゃ」、「クルアーンを暗記させなきゃ」、「アラビア語を読めるようにしなきゃ」。大事です、もちろん。だけど、結局嫌々やっていて、どこまで続くのかな。小学校の時はやるんです。うちの子たちも小学校の時は、叩かれながらも行っていました。だが、もう中学校になると、みんなモスクへ来なくなります。うちの子だけじゃない。うちの子は近いんで、しょうがなく行きますが、わざわざ電車に乗っては来ません、モスクには。

ではその中学生、高校生をどうするのかっていった時に、モスクに集まりたい雰囲気を、つまり仲間がいるんだよっていう。私がお茶会をやったように。中高生もお茶会目当てで来るんです、毎週土曜日、夕方5時から。

そこだけは誰も大人が入れない空間にします。一人だけは必ず見守り係を置きます。何かあったら困るので。でもそれ以外は、見守り係は一切口出しをしないことになっています。よっぽどの危険がない限りは。だから女の子たちが何をおしゃべりしていても、「ああ、もうスカーフ嫌だよね」ってバツと脱いでも、「お父さんが学校でスカーフかぶれって言っているんだよね」って言っても、何も言いません。とにかくじっと黙って聞いています。それが見守り係の仕事です。

とにかく子どもたちはいろんな、愚痴を言ったり、仲間を作ったりするために来る。そうするとモスクに来るようになるんです。楽しみになるんです、みんな。

浜中 今、何人ぐらい来ているんですか？

サラ 週によって違います。例えば岐阜のほうから来るおさんは、お小遣いを貯めない

と来られないんです。交通費がすごく掛かるので、毎月1回しか来られないって言って、お小遣いを1カ月間貯めて、それで往復の交通費を作って、頑張って来るっていうお子さんもいますし。親が連れてきてくれないと、子どもだけ、女の子は特に自分たちで行っちゃいけないっていう場合は、お父さんお母さんが送ってくれる時しか来られないので。

そういう、今も本当にバラバラ、日によってバラバラですが、でも10人だったり、女の子が10人ぐらい、男の子が10人ぐらいみたいな感じで大体前後してっていうふうにはなっています。

浜中　すごいですね。

サラ　とにかくモスクに来るっていうことが目的で。そうやっている内にアザーンが聞こえてくるんです。で、しょうがない、みんなでマグリブにゾロゾロ行くんです。で、「私嫌だな」っていう子は、別に、アザーンの放送が聞こえているので、そのコミュニティ・ルームでやりたい子はやってもいい。

でもそういう内に、「みんなが行くから」ってだんだんモスクのほうに移動して、礼拝室でする子も出る。そうすると週に1回はマグリブができるんです。モスクで。その内に、「なんか私だけやり方が分かってない、恥ずかしい」っていうと、「礼拝の仕方教えて」って来るんです。

だから頭から、もちろん教科書も大事です。だけどムスリムだっていうことを嫌がらない、お母さんたちももちろんそうです。お母さんをまず育てて、そしたら子どもも、ムスリムだっていうことを嫌がらなくなる。自己肯定ができるようになれば、いくらでも自分から勉強します。すみません、全然違うランクの話で。

前野　すみません、見守り係ってボランティアなんですか？

サラ　もちろんです。全部ボランティアです、うちは。先ほどの、一人でしゃべってごめんなさい、いろいろなお話がありましたが、ベビーシッターが必要だって、それも当然のことなので、お母さんたち勉強するのに子どもが走り回っていたら困るので、ベビーシッターっていうのを交代で毎週、自分も勉強したくても交代でやっていました。

ただそれでは、なんか誰かに押し付けている状態になって、やっぱり良くないので、「それならば」ということで、お子さんのいない方が、もうある程度自分がもうボランティアでいいっていう方が、子どもの勉強会を始めてくれました。同じ時間です。女性は、毎月第一土曜日がお茶会で、お茶会は続けてもらっています、第一だけ。で、第二週以降が勉強会になります。

その間は、小さい子どもはモスクの4階で、小学生、中学生、もう全部グチャグチャですが、お勉強会をやります。そこでは紙芝居をしたり、工作をしたり、みんなでカーバ神

殿切り抜いて作ってみたりとか、イード・カードを作ってみたりとか、そういうことをしたり、預言者さまの紙芝居をしたりとかっていう、お楽しみ会が毎週あるみたいな感じですよ。

教科書とか何とかがっていうレベルでは全然なく、本当に楽しみに来てもらう。お母さんが勉強している間は、子どもたちもこっちで遊ぼうね、イスラムのことで遊ぼうねっていうような形で。で、最後にはお茶もでてきて、みんなでお菓子を食べるのが楽しみでっていう子どもたちもいる状態です。

では勉強がおろそかかかっていうと、「イクロの会」っていうのがありまして、1時間早く来れば、クルアーンの、アラビア語の勉強もできるようにはなっています。

それと別に、イマームに頼むといつでも、平日もそれから土曜日も、どこでも、クルアーンの暗唱の勉強はそれはそれでできるので。もちろん勉強させたい方は、そちらにいくだけでも回っていくことはできるように、うまく時間帯が分かれて、全部うまく出られるように配分はしています。

ですからベビーシッターっていうよりも、もう子どもを集めてしまえば。そこでお勉強会、お楽しみ会をしてしまうっていうような形にしています。そういう意味では、だからやっぱり親たち、大人たち、特にお母さんたち。お母さんがやっぱり、当事者としてのお母さんが一番真剣にやると思います。だって自分の子どもの問題だから。ていうような感じで。ごめんなさい、小学生の話でなくて申し訳ないんですが。

前野 すみません、お茶、お菓子は Masjid がですか？持ち寄りですか？

サラ そうですね、皆さんのドネーションになってますが。お茶会なんかは結構皆さんが進んで持ってくるぐらいですから。足りなければ、別にモスクがいくらでも出しますよ。

店田 お母さんということで話がずっと来たんですが、日本人のお父さんが頑張る姿ってあまりないんですかね？

前野 うちの行徳に来てくれている日本人のお父さんたちは、インドネシアの人たちとの国際結婚組が多いんですが。なんで、逆パターンかもしれません。でも中にはとても積極的に、「あ、ご自分で向き合われているな」っていうのは見て取れる方もいらっしゃいます。一方日本人のお父さんだけに限らず、ものすごくマイノリティですが、両方日本出身の家庭があります。浜中さんの所もそうだし、うちもだし。浜中さんのお子さんたちがそれをされたかどうか分かんないんですが。

うちのケースではですね、少し悲しい出来事ってのがあって、逆差別の出来事です。前もお話ししましたっけ。

店田 今日初めてです。

前野 例えばイスラミック・サークル・オブ・ジャパンと関わっているんで、その会合なんかに行って、家族で参加したりするとですね、集まるのはお父さんお母さん共にパキスタン出身の子どもたちか、お母さんが日本人で、お父さんがパキスタン人。

浜中 なるほど。

前野 で、その子たちが恐らく自分の住んでいる地方で、学校では多分自分たちだけがムスリムなんでしょうね。だから、うちの子たちのような子を見ると、「おまえムスリム？」っていうので、それでうちの息子が「うん、ムスリムだよ」って。で、「そんなわけないだろ」って、「おまえ日本人じゃん」って。

浜中 (苦笑)。

前野 何だそれっていうですね (苦笑)。

浜中 ありそう。

前野 そういうレベルのことも展開してまして (苦笑)。

岡井 そういう時、お子さんはなんか言い返したりするんですか？

前野 いやー、けんかになったりですね、「もう行きたくない」とかなったりもしているわけですよ。で、宥めてですね、別にまた次の会では仲良くもしたりはしているんですが。まあ、子どもの話ですから。ではありますが。

浜中 もちろんあるんでしょうね。

岡井 ちょっとこの前、名古屋に寄せていただいた時に、なんかムスリムとムスリムでない子どもたち同士が話す時間みたいなのがあったじゃないですか。

サラ 「交流会マナビイニシアチブ」ですね。これは高校生団体でしたが、まあ、いろんな、とにかく中高生に発信する力を付けたいんです、私が。ここにレポートを印刷したものがああります。



図 2 マナビイニシアチブ参加者の感想

(<https://www.facebook.com/nagoyamosque/posts/986147844790746>)

浜中 すごい(Facebook のレポートを見ながら)。

サラ そういうふうにいじめられたりとか、なんか言われた時に、子どもたちって言い返すだけのロジックもないし、もちろん知識もないし、言葉も持ってないんですね。だからこの子たちにどうやって発信させるかっていう時に、発信するチャンスをまず作ってあげて、「失敗してもいいから、私が補うから」って言って、子どもたちを集めます。

で、そこに、ムスリムじゃないいろんな見学の方たち、で、この、ちょうど岡井さんがご親切に作っていただいたこのプリントは、たまたま 11 月に高校生の団体がイスラムを勉強しようっていう会を作ってくれて、遊びに来てくれた時に、中高生を集めました。

で、その時に出た質問を印刷してくださったんですね。で、こういう、「ムスリムで良かったと思うことは？」とか、「日本で暮らす上で不便なことは？」みたいな、本当に普通のつまんないような。

この時じゃない別の時は、「スカーフってどうやって巻くの？」とか、女の子に向かって。「すごくかわいいけど、それどうやって巻いてるの？」とか。「お菓子買う時って、どうやって買うの？」みたいな、もうそんなレベルでいいんですが、質問されたことに答えるっていうその練習ができるのと、子どもたちってどんどんどん、メキメキと発信力を付け

ていきまして。

一つ例なんですが、去年の6月の交流会の時に、中3の女の子が出した感想があります。これ、全部 Facebook とかホームページに出てて、そこから私書き出してきたんですが。中3の女の子、6月の時点で、「初めは年上なので緊張して心配だったけど、とてもフレンドリーだった」という感想を持っていた子が、この11月の交流会の時には、「IS とムスリムは違うということを、少しでも多くの人に伝えられることができ良かった」と。つまり最初は緊張していた子が、伝えられて良かったというふうに半年で変わるんです。

で、また、毎回参加している、こういう交流会があるといつも出てくる高1の女の子ですが、この子は「どういったところが怖いか、それをどう説明するかなど、今後の課題も見つけることができ、大変うれしく思います」、と。つまりもう説明するために自分でどうするかを組み立てていけるようになります。

で、逆にこの時初めて参加したインドネシアの高1の男の子。この子の感想は「ムスリムじゃない人に考えを理解してもらうことが難しいことを実感しました」。つまり初めて参加したので、実際質問された時に、もうしどろもどろで言っている。すると、言葉がどんどんどんどん変なほうにいつちゃって。あの子は結局聞かれたことに答えられなくなっちゃって、グチャグチャになって。

つまり初めてってそういうことなんですよ。だから数をこなすことで、もう聞いているだけでもいいから参加してっていうふうにやっつて。こないだもちょうど、岡井さん、ここも印刷してくださったので、慶應の奥田先生がいらっしゃった時も、子どもたちを急きよ集めまして<sup>3</sup>。で、いろんな質問をやっぱりしてもらって。

こういうことで、自分が疑問に思っていること、質問すること、発信すること、とにかく声に出させてあげること。だからごめんなさい、皆さんと私はちょっとスタンスが違うっていうふうに言ったのはどういうことかという、テキストを使ってイスラムの、例えば何かをするとか、クルアーンの勉強や暗記すとか、アラビア語とかではなく、私たちはムスリムとしての自信を付けさせるっていうところに重きを置いているって意味で、多分ここで線が引かれちゃうのかなっていう。

店田 いや、多分そんなことはないと思うんですが。

サラ ちょっと、向かっている方向が違ってしまっつて。

須見 そんなことはないです。

前野 そう仰られると、かえって心外ですね。

---

<sup>3</sup> <http://nagoyasque.com/6326.html>

岡井 なんかお話を伺っていて、線引きどころは置いて、自分のことを言葉にして伝えるというのはすごく大事だなと感じています。ICOJ のキャンプでも日本人の方がハンドリングしている部分があって、そういうトレーニングとかもやっていたらいいと思いますし。

で、これって別に教育だけじゃなくて、他者に伝えるっていうところと言うと大人にとっても重要で。われわれがお話を伺っている時に、やっぱり浜中さんとか、あるいは中村さんとかにお話を伺う時にですね、イスラムのことを主にお話を伺うことももちろんありますが、色々わかっていない、ムスリムでない日本人が感覚で理解できるようにメッセージをチューニングしてくださっている、という印象があるんですね。そうすることで「わー、かっこいいな」とか、そのまま「浜中さんに付いて行きます」みたいな（笑）。

サラ フフッ。

岡井 そういう部分って多分あると思うんです。で、今のお話からつなげると、例えば中村さんが福岡で他の、例えば高校生なんかにお話をされる機会ってあると思うんですが、特になんか工夫とかありませんか。もちろんムスリムの子どもでもいいですし、日本人の子どもでも。

中村 まあちょっと、この次世代というところから少し入りますが。皆さん次世代のことって、何か不安があるんですか？ないですね。ありますか？

サラ 私はさっき言ったように、子どもたちが自信をなくしていたり、隠したり、嘘をついたりして、自分がムスリムだっていうことが出せない状況の子どもが、結構周りにいるので。

中村 それは次世代に対する不安っていうようなことなんですか。

サラ そうですね。

中村 で、僕自身は、もう子どもが、私自身が入信した時に下の子は高校生で、上の子は大学生で。で、家族との関係はどうなのかとか、いろいろ心配したんですがね。基本的に大人がしっかりしてれば、子どもはほったらかしにしているといいなという気がして。例えば前野さんにしろ、須見さんにしろ、皆さん大人になって入信されたということです。

では、もともとイスラムと接してなかった私たちは、駄目なムスリムかっていうと、私はそうは思わないんですね。ですからある時期が来るまでは、サラさんが仰るように、まず楽しいことなんかさせて、で、本人が目覚めるじゃないですが、何か意欲が出るまでは、

ほったらかしにしている、あとは親を見てればまあ大丈夫じゃなかろうかというような気持ちがあるんですね。

私自身は、次は孫になると思うんですが、次世代に対する不安は一切ないですね。それにもうサラさんが言われたように、大人がもっとしっかり自分自身の自覚を持って子どもに見せていけば、少レアになるかもしれないが、まあ間違いないのであろうかと。



中村洋幸氏（福岡マَسジド）

で、そういうスタンスで、実は高校生に話しているわけです。自分自身がこうやって楽しいことをやって。イスラムって楽しいと思うんですよ、実は。まあ、いろいろあります。人間の社会ですから、いろいろ誤解とかけんかとかありますが、それを差し引いても今の日本の社会にあるギスギスした関係よりも、すごくいいっていうことを子どもたちに話すんですね。

で、その時話すのが、いわゆるイスラムの価値観と日本の価値観の、いわゆる何ていうのかな、共通事項を、日本の言語、言葉、伝統的な言葉をもってなるべく話す、あるいは日本の持っている習俗的なことからアプローチしていく。違いは当然ありますから。

で、そうすることで今まで知らなかったもの、知らないから怖い、見えないっていうところが、少しずつこうほぐれていって。で、言葉からアプローチしていった理解が進むっていうようなことだと思っています。そんな感じです。

前野 中村さんが一般の方向けにやっておられる伝統教室、子ども教室があると思うんで



すが、そういったものっていうのは、例えばなんですか、講師としてお招きしたり、そういうこと、他の所でもやっていただけるもんですかね。

中村 やります、どこでも。

前野 ありがとうございます。

中村 いえいえ。日本の伝統文化、ちょっとイスラムと離れますが、伝統文化は若い人たち知らないから、いわゆる異文化なんですよね。お茶にしろ、お花にしろ。私、お茶とお花の先生やっています。

一同 おおー。

中村 で、異文化ですから、知らないからこう、嫌だっという子どももやっぱりいるんです。ですからこう、では知らないならば教えてあげようということで、分かりやすいような感じで、こちらからやって、そして楽しいっということを教える。

そうしないと実は、伝統文化っていうのは途絶えてしまうんですね。強いんですが、途絶えてしまうんですよ。わずか20~30年でなくなってしまうんですね。ですからそこにやっぱり新しい血を入れるためには、もちろん若い人たち入れなきゃいけないっということをやっています。ちょっと外れてしまいましたが。はい、大丈夫ですよ。

サラ 名古屋モスクも、お茶に連れていったり、うちのホームページでも紹介しているんですが、子どもたちを近くのお茶のお教室に呼んでいただいて、みんなでお茶をいただいたりとか。

中村 名古屋はいいですね、お茶。

サラ 染め物教室をやっている方が町内会長さんなので、また地域の時でもお話ししますが、地域の交流の一環として子どもたちをやっぱりそこに送り込んで、染め物でハンカチを染めたりとかっという。

須見 それはムスリムだけ？それともいろんな人も？

サラ うちの子どもたち、モスクの子どもたちを呼んでいただいて、もちろん地域の子どもたちもいっぱいいる中で混ざって、お茶の時はうちの子どものみだけ呼んでいただきました。あと餅つき大会なんかも。いろんな人がいる所に一緒に行って、お餅つきしたり、

ってやっていましたね。

前野 いいですね。いざ世界に出た時に日本出身のムスリムが、何ていいますか、自信を持ってですね、世界で堂々とやり合って、やり合うって変ですが、肩を並べていくには、やはり自国の文化もきちんと修めていく必要があると思うので。

サラ ちょっとこんな感じで、お茶をみんなで。子どもたちがこんな感じで。



図 3 お茶席の感想と写真

(<https://www.facebook.com/nagoyamosque/posts/924945820910949/>)

浜中 すごいですね。

中村 ムスリムと非ムスリムの人と一緒に茶会。

岡井 あ、着物着て。

サラ もちろん向こうの方です。スカーフかぶってお茶点てています。

中村 ムスリムが正座できることに驚くんですよ、皆さん。外国人っていうのは正座できないもんっていうような認識があるんですがね。で、きちんと正座して。

店田 はい、はい。

須見 なるほど。

中村 だから双方にとって面白い光景ですね。

店田 それでまあ、さっき中村さんが言ったように、次世代のことはそんな心配する必要はないんだっていう、私もじっくりくるような（笑）。

岡井 とは言え、実際いじめられているっていうのもあるし、あと「いつかいじめられるかもしれない」みたいな、不安みたいなものを持っている子が例えばいたとしたら、自分でどう発信するのか、あるいは対処するのかっていう、何て言ってもいいか分からないですが、スキルじゃないですが、そういったものを考えておくことも必要なのかなっていうふうに思うんですが。何かそれについてアイデアというか。

サラ イスラムについては私も全面的に中村さんに大賛成で。ほっといても、大人になっても、私たちみんなやっているわけですから、だからほっといてもいいんです。でも今一番敏感な時期の子どもたちは、何とかしてあげないと潰れちゃっている子がいて。で、現にうちの次男なんか、本当にもう道を外れてとんでもない子に、中学3年から高校2年ぐらいいまでは、ここでは言えないですね、言わないほうがいい。

河田 ははは。

サラ すごく酷い状態でした。もう髪の毛も金髪モヒカン刈りになって。ヤンキーみたいな格好して、本当に人さまに迷惑を、要するに法を犯すような、あまり言うともまずいんですね、議事録とってますんでやめておきます。

河田 （笑）。はい、はい。

サラ ですからやっぱり、もう潰れちゃうんですね。もうどうしていいか分からなくなっちゃう子がいる。あるいは、うちの三男のように登校拒否。彼は登校拒否でした。やっぱり学校でいじめに遭いました、小学校6年生の時に。いじめっていうほどでもないんですよ。何気ない一言で、「おまえ爆弾巻いてんの？」って言われたただけなんです。たったそ

れだけの言葉で彼はもう学校に行けなくなってしまいました。つまり自分が今まで自信を持っていたイスラムが、実は周りから見たらテロリストだったんだっていうことに気付いてしまった時に、そこから彼は学校に行けなくなってしまって。で、それが結果的に、中学、高校、隠すようになったと。

だから何気ない、何か。いじめでもないかもしれないです。そんなことでも子どもって簡単に傷ついて潰れてしまうので、まずそれを何とかしなきゃいけない。今、そこなんです。だから、私は自分が知識もないし、学問もないのじゃないんですが、イスラムを教えるとか、アラビア語を教えるなんてできないので、まずこの子たちを今どうするか、助けてあげなきゃいけないんです。

で、もうとにかくムスリムの仲間を作ってあげる。そうすると学校では一人ぼっちの子たちが、それぞれが集まると、土曜日はもうみんなが本当にうれしくて。最後ご飯食べに連れていくんですが、例えばファミレスの駐車場でみんな抱き合っ、男の子たちが。「じゃあな、また来週」って言うんですね。日本人から見たら、高校生の男の子が抱き合っている図っておかしい図なんですけど、もう私たちムスリムだから当たり前。「じゃあな」って抱き合っ「来週」って、すごくいい感じで今は仲間作りができる。

そうすると一人がづらくなった時に、誰かに相談できる。今は LINE とかあるので、LINE でみんなでこう、やっぱり誰かが潰れる時はやっています。延々やっています、子どもたち。もうずっと誰かが誰かを助けている状態です。男の子の LINE と女の子の LINE、それぞれグループができていて。みんなも自分たちで助け合っています。仲間作りが大事です。女性も仲間作りが大事です。子どもも仲間作りが大事です。

浜中 そういうのなんて言うんでしょうかね。

前野 おじさん連中は仲間作り弱いんですよ。

浜中 子どもは言いますね、確かにそうですね。

店田 特に男性陣は。

中村 私なんか、仕事とかあるいは人間関係で…。すみません、個人的ですがね。やっぱり妻にかっこいいところ見せたいんですよね。だから妻に弱音吐けないんですよ、なかなか妻に弱音。で、ではどうするかっていったら、もうモスクに行っ、きょうだいたちに弱音吐いて、何とか頑張っできる。

多分、子どももそうなんだろうね。大人のほうがもっと本当は深刻かもしれないです、そういう意味合いでは。自分自身の悩み、苦しみ、会社で悩んでいることが言えない、今の日本人。でも幸いにモスクで、本当気兼ねなく話せて、また帰っ頑張れるとか。友達

作るの、いいですね。

サラ モスクは仲間作りの場所にしたいんです。

中村 いい！それはいいです。

サラ 勉強する場所じゃなくて。勉強する場所にするのと、行きたくないんです。小学校低学年ぐらいまでは親に無理やり連れてこられて行くんです。でもだんだん行きたくなくなるんです。で、中学になると部活があるからとか言い訳で、もう来なくなるんです。みんな来ないんです。だからそれを自分たちから来たくるように。それこそさっき言ったように、お小遣い貯めてでも来たくるように、そういう雰囲気が作れると、もう取りあえずあとはほったらかしで、中村さんが仰ったように。あとはほっといても、自分からやるようになると思うので。さっき言ったヤンキーだった次男も。

浜中 素晴らしいな。

サラ 早稲田大学で桜井先生にお世話になるようになって、なんかいたくムスリムなんですよ。すごく真面目なムスリムになって。1日5回の礼拝も欠かさないようになり、昔なんてもうそんなのどうでもよかったような子が本当に自分から行きます、大人になると。なので、そうですね、まずモスクが集まれる場所、そこに行けば誰かに会えるっていう雰囲気になる。モスクが大変でしたら誰かの家でもいいです。かつて私が自分の家でやっていたように、「毎週土曜日は集まれるよ、おいで」っていう場所さえ作っておけば。場所があれば何とかなるのかな。

店田 私はさっき教育だとか、カリキュラムだの教科書とか言って。そういうなんか堅い感じになっちゃったんで、あれですが。

サラ すみません崩しました、ごめんなさい、勝手に。

店田 まあ、いや、名古屋のそれも広い意味での教育だと思うので、まあ広い、別にそれが、他のモスクと全然違うっていうか、線が引かれるようなことはないと思うんですよね。

浜中 いや。

前野 いや、決してないですよ。モスクはコミュニティ・センターですから。

浜中 先進地域だと思いますよ。

サラ すみません、真面目なことをあまりやってないので。

店田 あくまでも、他のモスクも同じような課題が？

浜中 いや、もう本当に。

前野 逆に現在のムスリム世界が弱い原因の一つは、マスジドが礼拝する場所だけになってしまっているというのがあるわけです。

岡井 マスジドに限らないんですね。河田先生なんかがやっておられるのは。

店田 女性の会もかなり頑張っておられる。

岡井 拠点がなくても。

河田 今のサラさんのお話を伺って、私もすごく感じたのが、私も年に1回だけなんですけど、イスラムキャンプを、子どものキャンプをやっていて。で、その時にある男の子が、「このキャンプで一番いいのは、ムスリムの友達に会えることだ」ということを言っていて。

浜中 ああ、なるほど、そうですね。

河田 ただまあ大変残念ながら、そのキャンプもやっぱり高校生ぐらいまでが限度で、それを超えるともう、なかなかちょっと、男の子たちは特に来てくれなくなっちゃうんですね。やっぱりその時に、もうちょっとティーンエイジャーの、上の男の子とかが来てくれると、「～～君来てるの？」みたいな感じで、来てくれる子もいると思うんですが。以前はCさんっていらっしやいましたよね。彼がまだ何回か来てくれて、その時に中学生ぐらいの男の子が、Cさんといろいろ自分が読んでいる本の話をしたりとか、そういうなんかこう、ちょっと大人でもないし、子どもでもないその中間ぐらいの人がいてくれて。その子がお兄ちゃんみたいな感じで一人来てくれるところ、自分も行きたいとか思うんですが、そういう存在がいなくなっちゃうと、ちょっとその年代の子たちが来なくなっちゃうっていうことがありまして。

だから、サラさんが今そうやって中学、高校生ぐらいの男の子たちのコミュニティを作っているというのは、なんかすごくいいなと思いました。特に、男の子もそうなんですけど、

女の子もやっぱり高校生ぐらいになってくると、ティーンエイジャーの一時期のもので、ほっておいたらうまくその時期を抜けて、また成長するのもかもしれないんだが、やっぱり精神的に、嵐のような？渦の中にこう入るっていうことがあって。

やっぱり私も、まあ何人かちょっとそういう悩みを抱えている子の、直接その子からじゃなくお母さんから、「今うちの娘がこうなっている」みたいな話を聞くんですが、やっぱり日頃その子と直接いい関係を作っていないと、いきなり「悩んでるから、じゃあ相談に乗ろうか」みたいな感じでは、なかなか入ってはいけないので。やっぱりそういう同じ年代の子同士のコミュニティっていうのはすごく大事だろうなど。本当に。

サラ 場所を解放していただければ、どこか、ね。

河田 うーん、そうですね。

サラ おうちでもモスクでも、毎週とか毎月とか、決まった時に場所があれば、そこを目指して来るじゃないですか。で、そこでさっき仰ったように、「ムスリムの友達に会えるから楽しい」という人が増えていけば、彼らは自分たちで企画始めるんです、今度は。もう女子会とかいろいろ始まるんです。

河田 今やっているのは大阪でちょっと、ある人のおうちでお部屋を改装して、15人ぐらい。

サラ マーシャッラー、素晴らしい。

河田 ええ、子どもの。で、年齢的にはやっぱり小学生から中学校1、2年ぐらいまでなんですけど、今、子ども会議っていうのを。

サラ あ、いいですね。

河田 私もこないだ、初めて聞いたんですが、一応授業が終わった後で、では子ども会議やろうって言って、もう子どもたちだけで集まるみたいなことをやっているみたいなので。

サラ すごい。

浜中 すごい、なんかすごいな。びっくりしちゃった、すごい。

サラ それいいですね。その子が今度3年後ぐらいになると、中高生の会になる。

河田 ね、だから今、だからサラさんのお話を聞いていて。

サラ そうするともう。

河田 ああ、あの子ども会議を。

サラ そう、そう、そう、そのままいくんですよ。

河田 うん、そういうふうに思っていればいいのかなと。

サラ うちの子たちも幼稚園で一緒だった子たちが、今こうなっているので。自分たちで企画をして、例えばこんな女子会やっています(写真を見せつつ)。みんなで飾り付けして、お菓子をやって、これ女の子たちが自分たちで女子会を開こうっていうことになって。

浜中 女子会！

サラ これ実は地下、名古屋駅にあるスイーツパラダイスで(写真を見せつつ)、まずお菓子、ケーキの食べ放題に行くんです、みんなで。行った帰りにまたお菓子食べてんです、このモスクで。

河田 ああ。

岡井 (笑)。

サラ あの一、とにかく女子会です、これが。こんな感じでやっています。自分たちで企画を始めます。

浜中 そう、すごいな。

サラ いいです。

店田 札幌なんかは、そういう中学生や高校生みたいな世代の子どもたちっていうのは。

須見 いないです(笑)。多分勘違いされると思うんですが、札幌はすごく分母が小さくてですね。先ほど言った前野さんに来てもらった時は、3家族しか来ていません。で、今で



も小学校低学年の子どもを持っている家族は4家族ぐらいしかいないです。で、その中で。追加でちょっと訂正したいんですが、前野さんがやっていることは、まあサラさんとも同じですね、ゲームあり、クイズあり、で、すごく楽しいことをやって、その中でこう、イスラムを盛り込んでいくっていう感じでやってくれるので。だから、「また来週行きたい」というリクエストが子どもから来るんですね。で、さっきテキストって言ったのは、大人が教えられるようなヒントとしてのテキストっていう意味だったので、子ども向けの堅いテキストということではないです。で、札幌の場合は、そういうふう子どもを持っている家族が3、4人ぐらいしかないので、なかなかこう、そういうことができにくいというかですね…。

サラ では逆に人数が少ないので集まりやすいので、お母さんたちをまず集めて、お母さんたちに好きなだけお茶、お茶会をさせてあげて、お母さんたちも楽しませると、きっとそれに付随して、「じゃあ子どもたち何とかしようよ」という話が絶対出てくると思うので、お母さんたちなら。

浜中 その四家族って、民族はどういう民族なんですか？

須見 バラバラですね（苦笑）。

浜中 バラバラ…。難しいですよ。

須見 まあ、そうですね。

浜中 インドネシアのネットワークとかないんですか？

須見 ないですね。留学生に限れば、留学生はありますが。

浜中 結婚した人のネットワークはまだないんですか。

須見 もう、ええ、パキスタン人と結婚した人とかいらっしやいますが、バラバラなんで、家族も少ない。

浜中 ああ。

河田 お母さん同士は日本人？

須見 が多いですね。

サラ すると、やっぱり集まりやすいので。

須見 で、言われた通り、僕も1回そういうふうに行ったんですが、なかなかこう、場所も離れているので、ちょっと一人とても頼もしいムスリマの方が、お母さんがいて、その方にもう任せてですね。その方はもう家に呼んだりとか。結構、奥さん同士の交流は続けているみたいなので、もうそこはお任せしています。

サラ そこから始まっていきますよね、きっとね。

浜中 そのくらいだったら、松山とか新居浜なんかだったらもっともっと少ないですよ、それは（笑）。

須見 少ないし、遠いし、お互いが。

浜中 もうもう、集まるなんていうのはとんでもない話で。ムスリム同士が顔を合わせるつつうのは、本当になんか企画して集まるくらいじゃないと。軽く200キロぐらい離れているから。

サラ うわ。

浜中 100キロとかそういう距離なんで、そうですね。まあ松山のみちょっと集まりやすくなっているという。でもインドネシア人のネットワークとか、民族単位のネットワークはやっぱりこちらではあるんですがね。10人ぐらいのネットワークが。10家族ですね、インドネシア人だけ。

サラ でも、ボーンムスリムの人とコンバートのムスリムってやっぱ違うんです。特に自らの意思でなった方はいいんですが、私のような嫌々組っているのは…

浜中 ああ。

サラ ボーンムスリムの人たちと一緒にいると、なんか浮いてくるんですね。

浜中 そうですね。

サラ 違うのがすごく分かるんですね。

浜中 横のつながりがないですね。だからボーンムスリムのインドネシア人だけのネットワークになるんですよ。

サラ そうなんですよ。そこには入りにくいですね、やっぱり。

浜中 そうですね、いつも難しいです、それが。

サラ 私も最初は名古屋で、私は関東の人間なんで、名古屋に行って友達がいないので、夫が友達を連れてきてくれるんです、一生懸命。それがパキスタン人だったり、スリランカ人だったりするんで。だからムスリムっていう共通項はあるんですよ。私がもう自分をムスリムとして認めてない時点なので、まだ。だからその共通項があっても楽しくないんですよ。

だからその中で、例えばちょうどその頃、お醤油にアルコールが入っているんだってみたいな事件が起きて。で、「どうしよう」って私が言っていると、「あ、お醤油使わなきゃいいじゃない」って言うんですね。そりゃパキスタンの人は使わなきゃいいじゃないって言いますが、私はそうはいかないんですけどっていうのは、それが駄目なんです。シェアできない状態。

そうするとやっぱり日本人同士じゃないと、「どうしよう困ったね」とか、「ラーメン食べたいね」、「日本のカレーが食べたいね」みたいな話題が、くだらないですがそんな話ができる相手が欲しくなるんですね。そうすると私の家でやっていると、本当に200キロじゃないですが、静岡から月に1回車飛ばして来る方、岐阜から来る方、三重から来る方。月に1回ですがその頃は、とにかく集まりたいんです、200キロあっても。ていうふうにはなるかもしれない。ネットワークができれば、日本人女性の。

浜中 ああ、それは程遠いかもしれないですね。インドネシア人女性が集まりかけているぐらいのところなんですよ。日本人はバラバラ。

サラ 奥さま方を上手に使って。

河田 でもそれ、奥さま方が集まろうと思わなかったら、できないかな。どうなんだろう。

浜中 そうなると、世代が違ったり、なかなか集まりにくいですよ。

サラ 世代も違いますね。

店田 ちょっとよろしいですか。時間3時ぐらいなんですけど、サラートの時間もあるんですけど、それは一応取るつもりで考えているんですけど、30分ぐらい、一応まあ、おやつもありますので、ちょっと休憩。

サラ 私はズフルと一緒にやりましたが。

河田 私も。

サラ ね。

前野 私は…。続けていてください。

浜中 僕は2ラカートをカスル（短縮礼拝）でやるだけ。

サラ みんなあっさりしていますよね、きっとね、ズフルの時。

須見 僕もまとめてしました。

中村 一緒にしました。

サラ だから多分。

中村 一緒にしました。

サラ 礼拝はみんな大丈夫です。

前野 大丈夫…。

須見 いや、あの前野さんが…。

サラ ごめんなさい、失礼しました、失礼しました。

浜中 ハハハッ、僕は大丈夫。

サラ 東京の方がいらっしゃいました。失礼しました。

浜中 はい。ジュームアはやったけど、カスルは。

店田 はい、では。

須見 ああ、そうですね、今日。

浜中 はい。

須見 礼拝に参加しました。

浜中 ぜひ。

店田 では。

浜中 ちょっと。

店田 30分。

岡井 戻り次第でもいいです。

浜中 いや、5分もあれば礼拝できるんですがね。

店田 20分ぐらい、せっかくお茶っていうか、お菓子ね、頂いてるんで。

サラ 早稲田のお菓子なんです。

岡井 早稲田菓子。

河田 早稲田のお菓子。

サラ そうなんです。早稲田のお菓子をぜひ。

河田 すごい。

店田 20分休憩いたします。

サラ すごい興味がある。

須見 それは認証取っているんですかね。

サラ 認証（笑）。

前野 認証…、それちょっとわかんないです（笑）。

須見 最近はどうなっていますか。

前野 須見さんのところで認証とらせても。

サラ しょうがないですよ、この件。もう腹立ってきた。

(休憩)

(了)

## 第二部

店田 ではハラールのように。最後にまた全体の課題を総括する時間は少し取りたいと思います。一応5時までの予定ですので、そんなに時間があるわけではないですが。ハラールについてはどういたしましょうか。ここにいらっしゃる全員の方がハラールに関わっているわけではないので。今、特にハラールとの関わりがある方は？

サラ シャベっていいですか。もう、うずうずしているんで。

店田 では、短くお願いします。

サラ 短く。

前野 まず賛否の違いがあるかを確認させていただけますか。

サラ あ、そうですね。

店田 はい。

サラ ハラール認証賛成の方？

前野 そもそも賛成派っています？

店田 賛成派の方？（誰も挙手せず）

サラ いるわけがないじゃないですか、日本人ムスリムで。

店田 ハラール認証。

浜中 ではまあ、ハラール認証自体は？

前野 ハラール認証制度、そういうのを。

中村 日本人ムスリムがD地域では認証を出しているんですから。

須見 そういうこと。

河田 (苦笑)。

サラ ああ、それは儲ける人ですよ。結局利害関係のある人たちが…。

浜中 いや、僕は半々だと思います。

前野 半々ですか。

浜中 はい。

店田 賛成の方？

浜中 まあ、賛成もしてないですが。

店田 賛成でもない。

前野 違う、中立派ってということ？

浜中 中立というか、ある意味賛成も。

須見 あまり気にしてないという？

前野 ナハハ。

須見 あまり気にしてないスタンスで。

浜中 いや、一応商売として考えればいいし、非常にいい戦略だと思うんで。

店田 ああ、もちろん、はい。

浜中 そういう意味で考えれば、どんどんハラールっていう名前でやっていけばいいと思うんですが。商売する人たちにとったら、結構成功のチャンスは多いと思いますね、ハラール。

前野 いやいや、いえいえ、それには弊害は？



浜中 それ、どんどん考えていくと、確かにいろいろありますが、本当にちょっと半分半分というところで、濁しとんですが。

店田 ああ、中立的な？

浜中 はい。

店田 須見さんの所、須見さんはどうですか。

須見 はい、私の所もですね、以前の会長と今の会長が一時、モスクで認証を出そうという話が上がったんですが、全て私がお話をして、偉そうに言っていますが、状況をお話ししてですね、こういう弊害があるということをお話しして、そういう方向には今のところは行っていませんし、北海道の企業さんも認証を取っている所は、ほぼゼロに近い状況ですね。

中村 ゼロ？

須見 ほぼ。

サラ 取られた所にも結構、「やめるように」っていう布教活動を？

須見 そうですね、はい。で、やめた所も何カ所か。

サラ 結構積極的に動いてらっしゃいますよね。そういう意味では本当に北海道すごいなと思います。本当に活動してらっしゃって。間違ったところに行こうとしている、それをちゃんと正してらっしゃるから。すごいですよ、本当に。須見さんの活動は。

須見 かなり刺さるな…。

店田 ではモスクとしては、もうハラール認証の…？

須見 記号が今のところはなくなっています。

店田 福岡は？

中村 えっとですね、複雑ですね。

一同 (笑)。

中村 日本人の考えとボーンムスリムの考え方はちょっと違ってまして。イマームと話し合っ、やっ、とイマームの考え方を半分変えて。海外に関しては、求めている国の条件という形での認証は、これはいわゆる契約条項ですから、これはモスクで出してもいいだろう。国内に関しては基本的にやめようということなんです。

ただ彼らとしては、認証とハラールマークをワンセットに考えているんですね。で、僕らは認証とハラールマークを別個のものと考えています。いわゆるハラールマークっていうのは、内容表示の、ピクトグラムが一番簡単にしたようなもので、認証の権限とは一切関係なくて、誰でも作れるという考え方で、みんなしています。

でもモスクにいる何人かは、「やっぱり認証しなければハラールマークも出せない」みたいな考えの人もいるんで、そういう人たちは一応抑えて。基本的には私たちは福岡市、福岡県、公共機関と連携して、認証の要らない食事ということを進めています。ここ2年。

サラ サイドショップでしたっけ？

中村 そうです、サイドさんの。

サラ ソーセージの？

中村 そうです。いろいろセミナーもやっています。昨日も福岡県主催で料理業組合とあって、レストランとか飲食店とかの方に集まっていたいただいて、そんなに難しいことではないというような形でやっています。ですが、国内の感じだと認証は。

店田 認証はやらなくて、ハラールマークは…。

中村 「もう自分で作ってください」と言っています。好きに、好きなだけ。自分で、それで納得されるならば。

浜中 ああ、なるほど。それなら問題ないですからね。

サラ それならいいですよ、それなら。

須見 お客様が判断して…。

中村 だから単なる区別するための印なんです。

浜中 それが輸出する時に、果たして通用するかどうか。

サラ 輸出の時は無理でしょうが、国内だったら。

店田 では、ハラールについては？

須見 僕が言っているのは、「輸出する時はその国の食品基準だと思ってください」っていう感じです。

浜中 ああ。

中村 契約条項だから。

サラ だからアウトバウンドではいいんです、何をやっても。例えばサウジアラビアとか、マークがなかったから輸入はできないわけだから。マークだって、NPOが出したマークだったら輸入できなかつたりして、輸入差し止めになっちゃったケースも実はあって。あるNPOが出した認証ですごくお金を掛けたのに、もうサウジの港で止まってしまって。その後大塚モスクのほうに、「宗教法人じゃなきゃ駄目だ」って言われて。だからそれはもうその国、しょうがないんで。アウトバウンドは置いておいて。

須見 それは肉だけですよね？

中村 肉だけですわね。

須見 だけですわね。

サラ そうです。だから国内に関してはどうするかっていうことを考えないと、やっぱり。

須見 そこはあると思うんです。

サラ ここはムスリムの国じゃないんで。

須見 肉だけっていう感覚の人もあるし、さっき言った弊害は、もう、ね、いろんな状況。

サラ 肉だけっていうか、肉に関しては。

須見 米とか、もう何でも。

店田 何でもハラールが？

須見 認証要るっていう、イメージで。

サラ じゃなくて、「肉に関してハラールは認めない」という人が、ハラール認証団体があるんですよ。

中村 知っています。

サラ E 地域ですからね。ハラールと殺に反対している認証団体があって、意味が分からないんですよ。

前野・浜中 (苦笑)。

カワタ ふーん。

前野 それ、ハラール認証の団体なんですか。

サラ 名前なんでしたっけ？

須見 F ですね。

サラ G さんの所は何て名前。

中村 名前を変えるんですよ。批判を受けてコロコロ。

サラ そう、だからネットで探してもなかなか見つからなくて。要するに H の G さんですよ。

店田 F？

中村 最初はそうです。

サラ そこがハラールと殺、と畜に反対の署名をしています。ホームページ上で。

前野 ふーん。

須見 あの人は無視したほうがいいです。

一同 (笑)。

サラ 私たちは無視できるんです。でも企業さんたちはころっと騙されて。

須見 いや、企業の方でも。

中村 あ、いや、もういいと思う。

須見 ええ、無視。

中村 企業はもう金もうけの目的だから、損しようがどうしようがどうでもいいと思う。

前野 なるほど (苦笑)。

サラ いやいや、ムスリムのせいでかわいそうじゃないですか、それ (苦笑)。

中村 あ、いやいや、もうそんなの短期的に見れば50年ぐらいなので…。

前野 でもそこはムスリムじゃないんじゃないですか？

中村 ムスリムじゃないです。

前野 ですよ。

店田 はい、ちょっと話がすごい方向に (苦笑)。

一同 (笑)。

サラ すみません、ごめんなさい、横から取りました。

店田 では、行徳モスクの立場はどうか？

前野 行徳モスクは、行徳オンリーではなくて、イスラミック・サークル・オブ・ジャパン（ICOJ）っていう団体の管理下にありますので、団体レベルでお話しますと、私は筋金入りの反対派ですので、基本的に浜中さんもよくご存じの通り、ダルウ・マフアースィディ・ムカッダム・ジャルビ・マサーリヒ、「弊害を阻止することは、利益をもたらすことよりも優先される」というのがシャリーアの、イスラムの基本原則ですから。

お金もうけのツール、新しいビジネスモデルとして構築されているのが、このハラールビジネス、ハラール認証ビジネスなんでしょうが、やはり弊害のほうが大きいので反対しております。サークルの中で、サークルでの認証を始めようじゃないかっていう機運が高まった時に、「やめてください、関わらないでください」とお願いしてきたんですが、やはり雰囲気は消えないようでやろうとしているようなんですが、でもあらためて確認しましたところ、これならまあいいかなと思えるような感じのスタンスで始めるような企画がなされているところです。



というのは、世のハラールビジネス、その認証ビジネスというのは、基準もでたらめ、それから相手によって費用を変えたりですとか、そういったでたらめな話なんです、

ICOJ がやろうとしているのは、本当に実費で、最低限必要な、ほぼボランティアベースで。つまりそれが実現されれば、他は全部そこに集中することにいずれはなるでしょうから、他はそれで食べていけなくなるわけですね。そういった形で他のおかしな所が淘汰されていけばいいのかなっていう、あくまでも必要悪として捉えた場合での打開策の一つとしてはありなのかもしれないというような動きになっております。

店田 はい。ICOJ ではそういう必要最低限の認証が企画されている。これからですよ？

前野 そうですね。

サラ ごめんなさい、必要最低限ってやっていった場合に、そこにきつと最終的に集中するだろうって仰いましたが、怖いのは、今度は価格破壊が始まっていく。そうすると乱発がもっとめっちゃめっちゃな形で出てくるんじゃないかなっていうふうに思うんですが。誰かが値段を下げると、じゃあうちも下げる、うちもうちも、となっていく場合に。

中村 ええ、ええ。

須見 例えば認証は安くするが、コンサル料は…とか。

サラ 更新料がどうのこうのとか。

前野 ああ、なるほど、そういうことですよ。

サラ それはそれで怖いような気がするんです。

須見 彼らはこう、すぐに…（苦笑）。

サラ 要するにビジネスが目的の人たちだから、イスラムのことを考えているわけじゃないので。

前野 ええ。

須見 根本にそれがありますので。

サラ どうやったら儲かるか、なので。

前野 はい。でもコンサルとか何とかも、一手に引き受けられるようにならないですかね。それはない？

中村 あ、それも考えられます。

須見 うん、考えられる。かなりの人数が…。

中村 要ります。

前野 ああ、そうですね。

中村 コンサルとか全部やるとなったら…。

浜中 その団体が、そういうボランティアでそこまでのことができるかどうかですよ。

店田 まあ大変ですよ。

前野 そうですね。

須見 そうなるとやっぱりね、マレーシアみたく国でやるとかっていう変な方にいっちゃう。

サラ 国がやるんならいいですよ。

浜中 イスラム団体が全部協力して一つのマークを作ってやっしまえば、多分問題ないんじゃないかと思いますがね。

サラ それがいいと思います。

中村 西日本のほうで、広島以西で、イスラミックセンター・ジャパンみたいな組織を実際作っているんですよ。広島、福岡、熊本、鹿児島、別府。一昨年のお正月にハラル認証について話し合ったんですね。統一の見解を作ろうってみんなで話したんですが、その後バーツとみんな帰って、自分たちの見解を作って、自分たちでまた認証団体を始めたりとか…。

一同 (笑)。



浜中 ではまた一つ増えたんですね。

中村 実は、一つにならないんですね（苦笑）。Iモスクがそれをやり始めて。

サラ えーっ。

須見 へえー。

サラ Iが…。

浜中 先駆けしたわけですか。

前野 そのアイデアで。

中村 なるべく一つにまとめていこうとしたら、帰ったら、そういう話になったんで。

サラ では一つになればいいんですよね。そうするとムスリムが関わって、本当にムスリムにとって必要なものが。

浜中 そうですね。ムスリムのためにプラスになるんだったら、いいことだと思うんですが。

サラ そうなんですよ。

小野 部外者で申し訳ないんですが、小耳に挟んだ感じだと、Iモスクがやっているのは、多分地元の企業と一緒にやっていていると思うんですが。

浜中 ああ、なるほど。

小野 安倍さんの地方創生っていうのが事情としてあって、そういうところでやろうっていう。

前野 何が悪いって、助成金が下りているのがまた問題…（苦笑）。

サラ 東京のJ区とかね。

須見 創生費用を。

小野 そういうところも背景の一つらしいです。

店田 では行徳のお話がそれで。河田さんは、特にハラルには関わってないと。

河田 特に関わってはいないんですが。

前野 Kモスクの動きとか。

店田 Kモスクの動きというのは。

河田 いや、Kモスクの動きというか、私、例のLさんと知り合いなので。

前野 ああ、知り合いですか。

サラ そりゃ大変だ。

前野 僕お友達ですが。

河田 お友達なんで。

前野 友達で、にこにこしながら、こーう…。

河田 うん、だからなんか複雑だなと思って。

前野 どうしてこんな人ができるんだろうっていうような、僕としてはそう思いますが。

河田 ただあそこの認証を出しているMさんに関しては、私はちょっと含むところがあるので。

前野 え、Mさん出しているんですか。

河田 だから、Mさんがあそこの顧問。

前野 ええ一つ。

浜中 なるほど。

前野 ナウズ・ビッラー（不愉快なことが起きたときに言う言葉）。

一同 （笑）。

浜中 いやいやいや。

河田 だから私、「ああやっぱりこの人、こういう人なんだな」みたいなことを思ってしまった。

前野 アズハリーがですか。

河田 アズハリーがそういうことをしているんですよ。生活のために。

サラ 儲かるんですよ。儲かるんです。結局儲かるんです。

須見 儲かるんですね。うん、儲かる。

サラ そこに行くんです。

浜中 ああ…、そう…。

河田 それはご存じなかったんですか？

前野 ない、知らない。

河田 ああ、そう。

須見 なるほど。

河田 私はやっぱり M さんに関してはいろいろ思うところがあるので、この話を聞いた時に、彼が関わるってどういうことかなと思って。

浜中 それは…。

前野 ますます難しいですね。いや、それこそ浜中さんにもお願いしようと思っていたんですが。希望は、望み薄なんですけど、あえて一つの打開策として、基本的に世界中の多くのムスリムの学者たちがこういう御用学者に成り下がってしまっていますので難しいとは思いますが、それでも個人で活動されていて気骨のある先生方にですね、ハラール認証禁止のファトワーでも出してもらおうかっていうですね。

サラ 本当ね、うん。

須見 難しいですよ。

前野 で、一番ムスリム受けがするのは、サウジの学者に出してもらうのが一番ムスリム受けはするんでしょうけど、でもほとんどのサウジの人たちは御用学者なので。

河田 マレーシアみたいに国で出している場合に、やっぱりその国の人たちは、例えば日本に来たらそういうハラール認証のあるお店に行きたいみたいな感じになっちゃうわけじゃないですか。

浜中 それ、それです。

前野 そうです、そうになっています。

須見 洗脳されているんです。

浜中 ハラール認証出してる店は、お客がものすごく行くらしい。

須見 うーん。

河田 そうすると私たちが嫌だと思っても、やはりそういう人たちが観光客として来る限りビジネスとして成り立ちちゃうから。

浜中 そうです、ビジネスとして大成功なんですよ。

前野 そうなんです、だからドツボなんですよね。でも本当に客観的に捉えたら、あれ以上の愚民化政策はないんですよ。

浜中 愚民… (苦笑)。

須見 何も考えなくてもいい (笑)。

前野 だってそうじゃないですか (笑)。そもそも、個々人とアッラーとの間のやり取りであるところのものを第三者が立ち入ってですね。

須見 そう。

前野 しかも、もともと全世界にある全てのものはハラールで、限られたごく一部のものが禁じられているのに過ぎないにもかかわらず、まるでハラールマークが付いてないとうじゃないような。

浜中 そうなるとは思いますかね。

前野 もう歪曲するような。

サラ ではもう、ムスリムは食べるものなくなってっちゃいますよね、このままいったら、日本でマークがないと。

中村 だからあれなんですよ、「見てください、あそのムスリム。どうですか、痩せていますか」って言って。「今日新聞見ました？ムスリムが餓死で何人死んだって。違うんですよ」って企業に言うんですよ。食べるものいっぱいあるんですよ。

サラ そうなんですよ。

前野 (笑)。

中村 私個人としては、このハラールについてはもうしっかり解決はついているんですね。企業は金もうけやればいいし、今やっているのは中小企業を狙い目としたことなんです。大企業はもう内実が分かっているからほとんどやらないです。

中小企業の困っている人たちがやっていて。見捨てるわけじゃないですが、それは仕方がない。お金が欲しいからそうなるんであって。本当は、大事なものは、いわゆるエンドユーザーのムスリムの問題なんですよね。ですから、基本的にエンドユーザーのムスリムの教育をしっかりすれば、買わないし、使わないから。それをしっかり考えた上でな

ら、そういう感じに。

前野 しっかり考えたいですがね。

浜中 いやあ…。

須見 一つの案としては、特に東南アジアのムスリム観光客向けにですね、英語とかマレー語とかインドネシア語で、日本の認証マークっていうのはこういうシステムで、こういうお金が乗っていて。

サラ ばらすという (笑)。

須見 というのを正直に言ってですね (笑)。でその上で、日本っていうのは品質管理とかしっかりしているから安心して来てくださってという発信を、やっぱり日本に住んでいるムスリムはする計画もあるのかなと。

浜中 いやいや、難しいことで。

サラ 本当はそれ政府がすればいいんですよね。ブタとかピクトだけやって、自分でパッケージ見て、「ブタ入ってるね、トリ入ってるね」って。トリ OK の人はそのまま食べればいいし、「トリもウシも駄目だ」って、「ザバハ (喉もとを切ると殺方法) してなきゃ駄目」って、それはやめればいいしって、自分で判断できれば一番いい。

須見 そうすると国内向けの事業者には、私たち国内ムスリムがですね、「使用材料だけ表示を英語とかにしてください」っていう発信をずっとしているから。僕はそうやって、やっているんですが。

サラ それでいいはずなんですが。

浜中 まあ、そうなんですがね。

須見 でもやっぱり、事業者としては儲けたいから狭間なんですよ。

サラ ハラールマークがね。

浜中 難しいところやなあ。

前野 当の一部のムスリム自身がこのビジネスのうま味を知ってしまって、ドツボにはま  
って。

河田 (苦笑)。

サラ それが今困っていることですよ。

前野 それが問題なんですよ。

中村 僕はいいと思うんですよ。どうせ彼ら地獄に行くんだからしっかりやって、って思  
います。

サラ・須見・前野 (笑)。

サラ 分からないですが、それは。

前野 (笑)。

中村 いやいやいや、もうしっかり、やっちゃいけない、唯一の神以外の頼るものを勝手  
に自分たちで作って、それで儲けているんだから、これはもう必ず絶対地獄に行くと思  
うんだよね。だからあいつらの好きなだけ…。

前野 アッラーに対して嘘をついているのに等しいわけですから。

サラ すごいね、達観している、素晴らしいです。

中村 それよりも特に私が考えているのは、日本人ムスリム、ムスリマの方たちの知識を  
もっと増やしていただきたい。やっぱりご主人との影響があって、もう自分を苛むぐらい  
食べ物に関する…。

前野 うん、そうですね。

中村 実はパキスタンが、あ、パキスタンというか、出していいんですかね (笑)。ああい  
う方たちのハラール基準っていうのは、余計なのがいっぱい入っているんですね。

サラ はい。

中村 でも、前野さんや須見さんや皆さんご存じですが、いっぱいハラルの基準って皆さん個々人で考えがあるので、ですからそうやって一つに押し付けたりとかできなくて。みんなそういう情報を知った上で、あらためて自分の、個人のハラルの基準を作って生活していけば、こんなに楽なことはないと思っているんですね。だからそこら辺だけを。

サラ 子どもたちがとても…。すみません、話戻ります。子どもたち同士で例えばお菓子を買いに行きました。こないだも行かせたんですが、そうするとスーパーでけんかが始まるんです。

浜中 意見が違う。

サラ ゼラチンが入っているのは駄目だって、「おまえ何やってんだ、おまえ地獄に落ちる」、「いや、だってうちはお父さんがいいって言ったもん」とか。

浜中 (笑)。

サラ 「おまえのお父さんが間違ってるんだ」って言って、実はモスクのそばにあるスーパーで子ども同士のけんかが始まったことがあります。

須見 うん、大人同士もそうです。

サラ いや、子どもはもっと。要するに自分の価値基準を持ってないんですよ。

中村 うん、そこは親からなんですよ。

サラ だから、「うちはお父さんがこう言ってる」。

河田 うん。

サラ でも「うちのお父さんもこう言ってる。お父さんが間違えてるはずがない」っていうところで子ども同士が。子ども本当にかわいそうで。だから、特にパキスタン系は…。うちの夫もパキスタンなんで、それもあって、やっぱりちょっとうご覧になった方とか、多分あれですが、ムジャーヒド松山先生に来ていただいて、講演をしていただいて、イスティハーラの話とかをしていただいて、いろんな考え方があるんだよ、と。なおかつ、自



分で好きなファトワーを選べばいいんだ、と。

前野 うん。

サラ だから緩いファトワーは、緩いって変ですが、もっとマイノリティーに寄り添ったファトワーを選ぶ人もいるし、でもそれもファトワーである以上誰も否定しちゃいけないんだよ、と。お友達がやっているのは、それはそのファトワーだから、どのファトワーでも全部ファトワーだからって言って、尊重しましょうねということ、ムジャーヒド先生に講演していただいて<sup>4</sup>。

前野 素晴らしいです。

サラ そこから子どもたちがすごく良くて、みんなでご飯を食べに、さっき言ったように、終わった後行くんですが、一人唐揚げ食べているんです、ファミレスで。で、こっちはシーフードだけ食べている。で、揉めないんですね。そういうふうに自分で決めればいいんだよ、って。

須見 成人のムスリムもそういう状況なんですよ、実は。うん。だからそれを。

中村 ではそれを広げていけば。

サラ 広げたいんですが、ご主人たちが。

中村 だからもう日本人で、彼らはもう生まれながらに何百年の歴史と文化があって。

須見 そう、だから家庭ではね。

サラ いや、奥さんはそれができないです、やっぱり。私もそうでしたが。うちのお醤油は「アルコールって書いてあるのは買うな」って言われます。別に認証取っているものじゃなくていいんです。別にキッコーマンの丸大豆醤油とかそんなのでいいんですが、やっぱり嫌がります。

で、そうすると奥さんっていうのは、もうそういうのを探し回っていかなければ。「お味噌大丈夫？」とかってなってくるし。すごく面倒くさいことになっている。パキスタン人は。

---

<sup>4</sup> <http://nagoyamosque.com/6224.html>

中村 いや、すみません、申し訳ないんですが、そういう方と結婚された日本人の方はそうかもしれないが。それはこっちに置いて。僕は若い世代のムスリム、さっき言われた子どもとか、新しくこれから今、大学生とかどんどん入信されています。彼らが入信した際、そばにいた国の文化とか習俗で、食べ物の基準がかっちり決まってしまうと、入ったがゆえに却って苦しい状況とかになっているんですね。

須見 すごいですね、それ。

中村 ですから、ハラールフードに関するスタンダードみたいなのは、個人の基準でしかないってようなことをしっかり知っていただいて、情報を知った上でそれを選択して。で、やって。

サラ それを企業さんに分かってもらいたいですね。

中村 うんまあ、企業は失敗してお金なくなる限り分からないので。

サラ あ、そういうこと（笑）。

中村 で、それよりも私たちがそのことを皆さんに知っていただいて。

須見 そうですね、消費者が使わなくなれば、企業も使わなくなる。

中村 とは思っています。

前野 エンドユーザーの改善策っていうのは、ボイコット運動と似ている所があつて。

須見 （笑）。

中村 はい、はい。

サラ 日本人だけでも固まって、ボイコット運動をするか…。

須見 言い方は変ですが（笑）。

中村 実際に売れているんですか？商品として。認証は増えているかもしれません。認証

を受けている企業は。

須見 売れてないと思います。

中村 ですよ。

サラ 「売れなくて困っています」って相談に来た海苔の会社があります。「どうしたらいいでしょう」って海苔をお土産に持ってきましたが、私「別に要らないんですけど、このマーク」って言って。

須見 なるほど、モスクにはいっぱいチラシ来ますんで。ドサッと、弁当あるとか。

前野 なんでもっと前に来なかったのかな。

サラ そう、先にどうして来なかったんですかって。

須見 「化粧品あります」とかって、全部投げてます (笑)。

中村 企業さんもやっぱり宗教団体に関わりたくないんですね。ですから来ないです。そうなってくると、一般社団法人、NPO とかあちらのほうに行って、そこにムスリムの人が…。

前野 今後新設のマスジドは、すべからく文化センターにすべし、みたいな。

一同 (笑)。

サラ お肉系でハラールが増えるのはうれしいんです。主婦としてはね。冷凍食品とかレトルトとか使いたいんです。本当のことを言うと、子どものお弁当とか大変なので、朝の忙しい時は冷凍食品使ったりしたいんですが、そういうものはハラールにならないで、どうでもいいような、お皿は別としても、例えばお米とか、お茶とか、水とか。

須見 卵。

サラ ミルクとか、きな粉とか。「なんでそれに認証を付けるの？」っていうような。今言ったようなもの、まだいっぱいありますが、これに全部に関わっているのが、N 地域のほうにある、ある団体なんですね。

中村 ああ、はい、はい、はい、はい。

サラ 今、だから米にも出す、水にも出す、きな粉にも出す、コーンスターチにも出す「どうして？」っていう団体があるんですよ。それがムスリムの団体であるっていうところがくやしくて。本当にビジネス目的の、Hみたいなもの、お皿のために出すんならもうやっておけばいいと思います、訳も分からず。でもムスリムなのに、なんでそんなことをするのかっていう。

須見 N地域だけじゃないですよ、Lさんも出しているし。

サラ Lさんは結構でも…。あ、そうだね、やっていますね、そうですね。

須見 逆輸入もしていますね。で、申し訳ないんですがO団体も。

前野 それ、認証出していますよ。それ信じられない。

須見 O団体も出しています。小麦粉とか。

サラ でもO団体は、ホームページ上のことで見ると、原則として、基本的に…。

須見 はい、国内認証出しませんっていう。

サラ って言っているんです。

須見 言っているが。

サラ それはありがたいことなんです。

須見 言っているが、実際は出しているみたいですね。

サラ やめてほしいですね。

須見 これは、某一部の方々ですね（笑）。

前野 ああ、P大学に流しているんだ。

須見 はい、P 大学と組んでですね。

サラ さっきの N 地域の団体ですが、ほとんど精査しないで乱発している状態なので。先日沖縄にちょっと行ってきた時に、ムスリム認証ホテルっていうのに行ったところ、ホテルで認証ってよく分かんないんですが（笑）。要するに礼拝室があるっていうだけだと思うんですが、礼拝室見てきたら、すみません、これ慶應の時にいた人たちはご存じの話ですが、みんなで案内されて行ったら、マットが敷いてある。2 枚、ちっちゃいのが。で、私たち総勢 8 人で、「あ、2 枚か」って。では、よくやりますよね、こういうの、こうやってやろうと思っても二人並べないんです。それぐらいちっちゃいんです。で、終わった後畳もうとしたら畳めない。つまり分かりますよね。

前野 引っ付いてる。

サラ 玄関マットです。

前野 あ、玄関マット（笑）。

中村 （笑）。

サラ 玄関マットが 2 枚敷いてあるんです。

河田 へえー。

サラ それをハラール認証出すっていうことは、恐らく現地にも入ってないし。多分写真撮って「これでいいですか」って言ったら、その N 地域の団体が「あ、OK」って言って、認証出したんだと思うんですね。

河田 ふーん。

サラ 玄関マット敷いているような所が認証ホテルっていう時点で、もう認証の格ってそんなものなんですよ。

須見 いや、ほとんどの団体はそうですから。札幌でも焼き肉店にハラール認証出した所は、一度も来ないで 3 カ月間ずっと認証を掲げていたんです。それは認証団体が「ちょっと忙しくて行けないから、取りあえずマークは使っていていいよ」っていう（笑）。

サラ それもあそこじゃないですか。

須見 いや、違いますよ。

サラ 他にもあるんですか。

須見 Q 団体です。

サラ ああ、あそこは緩いから、まあ。

中村 ああ、あそこ。

須見 あそこはこれ次第ですからね（笑；指でお金のジェスチャーをしながら）。

サラ あそこはもう L さんがすごく怒っていますよね。

前野 こないだ青年日本人ムスリムのランチ会で、ハラール認証取ったっていう R 地区のラーメン屋さんを利用したんです、そこで。

サラ あ、S というお店。

中村 ああ。

前野 で、ラーメン屋さんはラーメン屋さんで繁盛してそうだし、ムスリムの店員さんですから、コックさんもいて結構なんですけど、その両隣？「これないでしょ」って、ここで、両隣のお店があったら、もうこれ自体ですぐアウトでしょっていうようなですね、そういう環境なんですよ。

サラ 飲み屋さんとかですか？

前野 いえいえ。もう。

須見 とんこつラーメン？

河田 バリバリの？

前野 女性のあられもない。

サラ ああ。

須見 ああ。

中村 風俗系？

浜中 あ、そういうこと。

中村 まあそれとの関係で、ホテルにハラールマークが付いていると聞いて、僕ら冗談半分で、「じゃあハラールのホテルっていうと売春宿かストリップ小屋か、だからこれが付いてれば、見た目分かんないけど、売春小屋でもないし、ストリップ小屋でもない宿泊所ですよっていうことをやってるのかな」とか言いながら、ちゃかしていますがね。

須見 でもハラール認証を受けていてもあれですよ、映画とか見られるから。

中村 うん。

サラ ああ。

須見 温泉のなんかと同じですよ。

中村 そうなんです（笑）。

サラ お酒も飲めるしね。

中村 テレビですね。部屋のテレビ。だから、基本的にエンドユーザーのムスリムがしつかりしときゃ、そういうのは別に。

サラ 少なくともムスリムがやっているハラール認証を止めたいんですが、どうしたらいいでしょう。

中村 いや、もう、あの人は地獄行くから、好きなようにさせときゃいい（笑）。

須見 (笑)。

中村 一度金に目がくらんだら、なかなか…。破産して、路頭に迷うような悲惨な目に遭わない限りは。

サラ ちょっ (笑)。慶應の奥田先生との交流会<sup>5</sup>の時にも、TモスクのUさんが。うちの夫がパキスタンで、パキスタンつながりなので言っていました。もう何度も言われるんです。「名古屋モスクも認証出してください」というのをひたすら言われて。要するに、「Tモスクはそれで儲かってるよ」ということだと思うんですが、名古屋も出すべきだって。

前野 しかも「ダアワで使う」とか何とか言ってんですよね、もうね。

サラ ね、あれ、よく突っ込んでくれるんです、そこ。「明細を出してください」と仰っていましたが。本当にびっくりするぐらいのことが起きているので、あれを私はやめてほしいんですよね。どうしたらいいのか。そのためにも日本人で、浜中さんが仰ったようにね、なんかちょっと日本人だけでも統一基準があって、それこそボイコット運動でもいいですし、何か止めないとこのままじゃ、本当に変な方向に今…。認証どころかハラールビジネスもとんでもないことになって、こないだのハラールエキスポってご存じですか、11月の。

前野・須見 はい。

須見 千葉の幕張メッセで毎年…。

サラ VさんのW団体がやっていて、出店料が20万円なんです。で、70軒ぐらいありましたね。

浜中 いい商売してますな。

中村 福岡 Masjid も出ました。

サラ あ、失礼いたしました、20万円払って？

---

<sup>5</sup> 注3参照。



中村 いえいえ、ただで出ました。

サラ それはよかったです。そこで名刺を渡さないと、パンフレットももらえないっていうぐらいもう完全に商売目的の人です。

中村 そうです。

サラ 私の友人が会って、「パンフレットもらえなかった」って言って、名刺を持っていかなかったんで。1枚だけ持っていたのを使ったのはどこかって、Xという企業です。礼拝マット、金糸と絹を使ったっていう、恐ろしく、ハディース読んだことあるのかなっていうぐらいの。金糸と絹の、最低7万円からで出店していましたが。実際は「オーダー次第で金をもっと入れます、絹をもっと入れます、100万でも200万でも作れます」っていうふうに仰っていたと。だからイスラムが全く分からない方が、イスラムビジネスに今関わっている状況で。

中村 そう、そう。

サラ だって金と絹ですよ。

須見 もう弊害の一つですね、それが。

前野 福岡 Masjidは何をされたんですか。

中村 あのですね、去年うちの Masjidが行っているんですよ。で、見に行ったら、もうビジネスだからあれは駄目だって、はっきり判断しているんですね。ところがボーンムスリムは、「ハラルエキスポなの、じゃあうちのスタンスを向こうで教えればいいじゃないか」っていうことで。で、「行っても無駄だよ」って僕らは言ったんですが、「いや、行く」って言って。で、印刷物とか何やかんや持って行ってみたら、「あ、駄目だった」っていう(笑)。

一同 (笑)。

サラ ああ、駄目でしたか。

前野 そりゃそうでしょう。

中村 もうみんなビジネスのことだから。

サラ そうですね。

中村 イスラムのことを勉強しようっていう気持ちはないんですね。

須見 気持ちはないです。

サラ ないです、ないです。

前野 だからそこでエンドユーザーたるムスリムが怒れっていうんですね。

サラ 怒りたいんですが。私、行きたい、怒りたくて、何とかしたくて、もうこの時間を楽しみにしています。

前野 だって馬鹿にしてる以外の何ものでもないわけじゃないですか。

サラ そうです、本当に。なめられていますね。

河田 でも私、最近よく、イスラムの話をしに行ったりしたら、「今はハラールビジネスすごいらしいですね」とかすごく言われるんですよ。

須見 それも弊害の一つですね。

河田 それで普通のムスリムじゃない日本人の方からね。「いやいや、これはちょっといろいろ問題があるので、もう触れたくないんです」とか言って、あれしているんですが。

サラ 煽るんですよ、周りが。Y 団体ってあるじゃないですか、Z さんの。そこが、1 回でもなんか名刺とかなんか関わったりすると、ガンガン送ってきますよね。

前野 はい (笑)。

サラ で、もう今月に入って 9 通目のメルマガが今朝来ました。1 カ月で 9 通って半端ないくらい更新しているんですよ。で、煽るんです。「次はこれです、次はこれです」って。もう見ている人がやらなきゃいけないようになってきちゃって。最初はこう、遠目に見ていた人が、毎月そんな 8 回も 9 回もメルマガが来ると、「ちょっとまずいのかな」って言っ

て。私と関わっているいろんな団体も、「やっていいでしょうか」とか時々来るんですが、絶対駄目って言って、「やったら縁切ります」ってよく言うんですが。やっぱり時々フラフラと行くんですね。行きそうになるんですね。だから、あの煽り方も半端ないですよ。

須見 ほお。

サラ すごいですよ、メルマガ。来ます？

サラ 1回名刺をですね…。

河田 それ、どこから？

サラ Y団体っていう所。あの煽りもすごいですし、もうなんでしょうね、本当に「乗り遅れないように」、と。で、あそこの方が一人、Zさんじゃなくて、AAさんっていう方が1回名古屋モスクにいらっしゃって、「とにかくやめてほしい」というお話をしたんですが、「いや、ムスリムの方は皆さん喜んでます」と。

須見 うそー。

サラ 「どっから出たんですか」って聞いたら、「毎月2回サンプリングでアンケートを採ってます。試食公開をしてるんです、私たち」と。で、「皆さんがすごく喜んで、こういうのをどんどん増やしてほしいと言ってます」って仰ったんで、「どちらですか」って言ったら、「栃木のほうで」って仰いました。で、ピコーンとなったのは、私パキスタン人の嫁ですから、車関係です。あそこは車のオークション会場があります。ということはパキスタン人の男の人、要するに外国人のムスリムだけをターゲットに試食会をして、ユズジュースとか訳の分かんないシークァーサーとか食べさせているだけで、喜んでるわけですよ。外国人はだって読めないから。

でも買い物するのは、日常の買い物は日本人の奥さんなんです。ということは、日本人の奥さんはパッケージ見れば別に、ユズジュース絶対OKなの分かるわけで、ハラールマークなんかなくてもいいのに、その人たちにアンケートは採らないんです。すごくずるいんです、この人たち。日本語が読めない人たちに食べさせて、「ほらどうだ」という。

河田 「ハラールですよ」って言って。

サラ そうするともう日本でも、「ハラールマークのユズジュースいいね」ってなるんですよ。

前野 (笑)。

サラ 本当に。

須見 観光庁とかね、行政のアンケートの採り方もちょっとおかしいですよ。例えばマレーシアとか今ね、インバウンドで各市町村に行っているじゃないですか。その時やっぱりムスリム向けにアンケート採るんですよ。そしたら、「ハラル認証のレストランがあったほうがいいですか」って。

サラ ブッ。

須見 聞けば丸めますよね。

サラ そりゃ、私も丸めます、はい。

中村 (笑)。

須見 そういう採り方して、やっぱり必要だっていう結論づける市町村もあるわけですよ。

中村 国家っていうか、国の関わりとしては、一度提言したことがあるんですが、今言った詐欺的な行為をしないような形での関わり合い、犯罪行為にならない形での関わり合いならば、宗教とは全然関係ない形なんですよね。

なぜかといったら、表示法違反というのがあります。表で謳っている内容と実際の内容とが違うって。そういう形ならば、国もハラルビジネスの関係に関われるんじゃないかということ、以前ちょっと市とか県のほうに。

前野 関わるっていうのは県っていうことですか。

中村 そうです、まず勧告です。内容的に。

須見 「これおかしい」って？

中村 「おかしいです、表示法に違反してますよ」と。「詐欺に近いですよ」って言って。それが駄目だったら告発します。検察庁なり何なりに。そういう形でのコントロールならば、いわゆる政教分離という問題とは全然関係ない形で国家を語る、参加できるっていう

ようなことを思いましてですね。これはもう少し弊害が出てこないと、多分動かないと思いますかね。訴訟にも幾つかなっているでしょ？

須見 うん、噂では。

中村 ね、ただみんなあまりやっぱり、欲を掻いているから、「儲からなかったから金返せ」っていう企業が少ないみたいで。ただもう金額…。

須見 まあ、金額微妙ですもんね。

中村 うん、翌年から更新はやめるっていう所がほとんどです。

須見 継続することは、もう？

中村 ほとんどないです。もう利益がないから。

浜中 それでいい方法があるんでしょうね。

前野 審判の日にみんな面白いものを見てもらいましょう。

中村 はい。

須見 審判の日ですか。

前野 楽しみにしてましょう。

須見 もう一つ言うと、僕は最近ハラール問題にはまってしまって、いろいろと考えているんですが。やっぱりハラールという言葉をもスリムも使わないほうがいいんじゃないかなと最近思っています。

なぜかというとは、クルアーンにも書いてある通りですが、人それぞれっていうのもありますが、ムスリムも安易に使いやすいついていうのはですね。札幌とか観光に来るムスリムがいて、僕の電話番号とか紹介して、メールとか電話が来るんですよ。で、聞くのがですね、「須見さんちょっと教えてください、ハラールのレストランありませんか」とか（笑）。

浜中 それ、そうなんですよ。

須見 言うわけですよ。昔はそういうハラールを掲げている所を教えてあげたりとか、せっかく札幌、北海道に来てですね、カニも食べない、あれもしないんなら、非常にあれなので。最近はですね、「いや、たくさんありますよ」という返事をする、なんか電話の向こうで、「えっ」というような感じになるんですが。だからそういう意識も、何ていうのかな、安易に人に「ハラールですか」とか、「これハラールだよ」とかっていう、ハラールって言葉をあまり使わないよう。

サラ 福岡のパンフレットいいですよ。ハラールって言葉をあえて使わずに、「ムスリムが行くお店」という表現で、福岡の外国人向けのそういうパンフレットを作ってもらっちゃって。あれはすごいなと思いました。

中村 あれは企業さんが頑張ってくれて。

サラ 今、岐阜県でもまねをしようと、今、岐阜県とちよほどコンサルしているんですが、福岡のパンフレットをぜひ見習いましょうっていうふうに。

中村 ありがとう。

浜中 うーん…。

サラ それこそ須見さんが仰るように。

中村 最近、Facebook にハンバーグのことを上げているの、見てらっしゃいます？モスクの近くにハンバーガー屋さんできたんですよ。おいしいので、「どこのお肉使ってらっしゃいます？パテ」と言ったら、「アメリカ産です」と言うんですね。「いいですね、つなぎに何か入ってますか」と言ったら、「ブタが入ってます」と言われたんです。

サラ ああ。

中村 「あ、駄目だ」と言ったら向こうが「どうしてですか」と言ったら、「実はイスラム教徒で、こういうふうな理由で食べられないのがあります」と言ったら、「鶏はどうですか」と言ってきたから、「鶏はいいですよ」と言ったら、「ただし、ブラジルとかオーストラリアとかアメリカ産ならいいんですが」と言ったら、「じゃあちょっと準備します」ということで、ブラジルの肉 100 パーセントのハンバーガーを作ってくれたんですよ。その際に、一応パンの中に乳化剤とか入っているかどうか聞いたら、確認してくれて、入

ってない。



サラ え、乳化剤駄目なんだ。

中村 乳化剤とショートニングが入ってないから大丈夫だって。そして、グリルはどうかって言ったら、もうここは同じ所でしか焼かない。ただその代わり、肉の焼けがよくなるように、一度焼いたらそのままきれいに掃除するんですね。そして焼くんですよ。

「分かった、じゃあこれをみんなに紹介します」って。載せた時はハラールっていう言葉を使わず、肉の材料と洗い方とか。パンには乳化剤、ショートニングが入ってないっていうことを情報で出したんですね。そしたら何人かがやっぱり来るようになってきて。

サラ すごい。

中村 ただ中には、「自分の判断からするとこれはハラールじゃないから気を付けろ」というメールをくれた人がいますね。そこでいったん、「潰すな」って。せっかく協力してくれるお店ができていのに、自分の勝手な判断でハラールとかハラームとか決めずに、まずアドバイスしてくれって。そうしてくれたら、いろいろお店が増えるはずなんですね。

サラ すごい。

中村 だから一方、みんな外国人は、自分の判断でこれハラールだなんだって、それでもうおしまいなんですよ。そしたらあなたたちは帰るからいいし、他の食べ物でもいいから。でも、やっぱりおいしいものを食べたい仲間がいるんだから、そこはアドバイスして話し合っ、改善できることは改善して、そうしてやっていこうじゃないかっていうことをちょっと Facebook で。

サラ すごいですね。それ名古屋でもやらせたいですね。

前野 アンチハラール認証の署名運動ってできないんですかね。

河田 (笑)。

サラ やりたいです。とにかくなんかしましょうよ。

中村 どっか、インターネット上に上げたらどうですか。

サラ せっかく日本人がこれだけ集まっているんだから。

中村 インターネット上にそれを上げたら。

前野 ああ、そういう。

サラ やってください。もう名古屋モスク本当に全面的に協力します。

前野 モスクとしてはいけないかもしれないが… (笑)。

サラ そう、だからシェア、そのページを。私たちはそれをできないんですよ。だからシェアするっていう形でやりたいなっていうふうに思います。本当にぜひ。ただ1個質問していいですか。乳化剤はなんで駄目なんですか？

中村 あのですね、基本的に、前野さんもお存じだと思うんですが、動物由来という訳の分からん理由で駄目にしているんですよ。

サラ いえ、あの一。

前野 いやいや、それはそういう人がいるっていう話でしょ？



中村 そうです。だから、なんで駄目なのかっていうこと？

サラ 今乳化剤が入ってないからっていうことを仰ったので。

中村 あ、そうです。乳化剤が駄目だっていう人もいるので、確認したんですね。どうですか。

河田 中村さん本人は別に？

前野 そう、中村さんの意図は、「公に示すために」っていうことで。

須見 うん、だからあまり。

サラ でもチキンは大丈夫だって、そのブラジル産とか。

中村 ブラジル産の場合は啓典の国の肉だったらいいっていう、はっきりクルアーンに書いてあるので。それがいいっていう人もいる。でもパキスタン人のほとんどは、「彼らはクルアーンを守らない」って言うんで駄目だったよね。

サラ 駄目です。絶対駄目です。パキスタン人は駄目です。すみません、夫がパキスタン人で。

河田 いえいえ。

前野 まあ、クルアーン守らないっていうより、私もそうですが、啓典の民を啓典の民と見なしてないっていう。

中村 いや、そういうふうな考え方もあります。で、彼らは、ハラールマークが付いていたら食べるんですよ。「どうして啓典の民のもの食べないんですか」って聞くと、「本当にイスラム教徒がスロータリングしたかどうか分からないから食べられない」。「じゃあハラールマークが付いていたら、本当にイスラム教徒がスロータリングしてるって分かるんですか？」って聞くと、これも「分からない」と。「ならばクルアーンに書いてあることと、クルアーンに書いてないハラールマーク、あなたはどっちを信じるんですか」って聞くんですね。答え、困るんですよ。

サラ　すごいな、それ。

中村　答えるのに困るんですよ。

浜中　いやー、それは…。

中村　書いてないほうを信じるっていうのは、ではクルアーンに書いていることは？そこでクルアーンに書いてあることを余計な知識で膨らませてしまって、がんじがらめになってしまって、できなくなっているっていうのが現状なんじゃないですか？

須見　うん。

サラ　それパキスタン人の集会に行って、ぜひ言ってもらいたいですね（一同笑）。奥さんたちどれぐらい救われるか。奥さんと子どもが。

須見　こ、殺される（笑）。

中村　彼らはいんですよ、もう生まれながらのそういう習慣。

サラ　いやいや、奥さんと子どもが救われるっていうことですよ、日本人の。みんなかわいそうですもん。

中村　そうです、もう。

サラ　みんな子どもたち食べたいんです。

中村　おいしいですよ、あのハンバーガー。

サラ　ああ。

一同　（笑）。

須見　人それぞれですからね。

中村　そうなんです。だからさっき言ったように、ただのハラール基準っていうのは、もう個人の基準じゃなかろうかと思うんですよ。それをお互いが認め合っていけば、さっ

き言われたように、こっちはシーフード食べていて、こっちはチキン食べていても別に問題ないと。

サラ 乳化剤でこだわるんですが、結局1次原料って書いてあるじゃないですか。パッケージに「乳化剤」と。でも乳化剤の原料である2次原料、その原料のもとになる3次原料って書いてないじゃないですか。そんな2次原料、3次原料までこだわっていることがまず。

前野 うん、必要ないですよ。

須見 はい、必要ないです。

サラ おかしいと思うので。

前野 はい、乳化剤は問題ないはずですね。

中村 そもそも乳化剤とかショートニングにこだわっているの何か、どこからかっていったら、基本的にコーシャですよ。ユダヤ教ですよ。なんであんなユダヤ教のまねをイスラムでするんだって。

サラ ていうか、私の周りで乳化剤にこだわっているのは、Tモスクの人しか知らないんですが。

前野 ハハハ。

須見 いや、基本的にはたくさんいますよ。

前野 あれですね、この関係ってムスリムがまさに、語弊ありますが、ユダヤ教徒化してしまっているっていうような。

中村 絶対そうですよ。絶対そうです。

サラ 誰か署名運動お願いします。モスクと関わりのない方で。シェアしますね…、誰も手を挙げない…。

前野 いやー、本当に時間があれば（笑）。

サラ シェアをお願いします。

前野 時間ができれば、作れば。

サラ 時間作ってください。一刻も早く。

中村 大学では作ってくださらないんですか、例えば。

店田 え？大学で。

中村 うん。

店田 ハラールをしないと。

中村 うん、大学のスタンスとして。

サラ 社会学は難しいですね、そこは。

店田 でも、スタンスとしては難しい。

河田 やっぱりそれは、ムスリムがやらないとまずいんじゃないかなという気がします。

サラ そうなんですね。

須見 それはやっぱり、イスラムの大学を出て知識のある方が。

サラ そうですね、それが一番いいと思いますね。

須見 そういう方の意見を。

浜中 それはなかなか難しいことかもしれないですね。

須見 例えば僕が札幌市で発信しても、何の肩書もないじゃない。信用されないっていうのも結構あるんですよ、事業者さんに（笑）。

サラ やっぱり勉強された方が発信されて、もうそこにガンガン乗っかって、日本人の声として届けば、企業にもパッと「今幾つです」って見せられるし。本当にそうやってきた人たちが、数字で見せれば何だっていうことになると思うんですよね。

なんか間違っって「ムスリムが欲しがってるんだ」って思っているから、変なアンケートで。事実を知らせてあげて、ここに集まったってそんなにもろ手を上げて賛成の方はいらっしやらないじゃないですか。だからやっぱり日本人はそこまで欲していないので、それを声を大きくして届けたいですよね。

中村さんの説だと、「どうせ地獄に落ちるから」なんでしょうが、私はやっぱり子どものことを考えると、これから子どもたちがもっともっと苦しい思いをしていくのが嫌なので、どんどん厳しくなって、結局自分たちの首を絞めていますから。

中村 まあ、そこら辺はムスリムの教育、本当の意味での教育だと思います、ここは。幾つかそういうふうな説があるというのをしっかりと、先ほどのコーランのことを教えて、どれを選んでも何ら問題ないということをはっきり言ってれば、多分大丈夫です。

須見 はい、まあ、押し付けにならない程度になんか情報を発信して、いつか気付く。

サラ いつか気付く。

須見 きっかけになるようなヒントをです。

サラ いつか。

須見 こう、発信していけばいいかなと。僕自体も、まだ知識ない頃は「ハラル認証ってすてきだな」って思っていた時期が半年ぐらいあったんで(笑)。やっぱりその時は全然知識がなくて。クルアーンも大して読んでない、すごく昔のことですが。

やっぱり誰でもあると思うんですよね。こう、周りの意見に影響される時期っていうのがね。だからそれに対して、例えばクリックすれば前野さんの根拠を示した意見とか見られるとかね。

サラ もうインシャッラー、すごく楽しみにしています。

須見 うん。

一同 (笑)。

前野 子どもの邪魔が入って、全部終わらないと思う。

サラ やっぱり検査キットとかも出てきていて、こないだのハラールエキスポの時に、リトマス紙みたいに出てきたご飯にそれを入れると、ブタの成分が入っているかどうか分かるっていう。

前野 とんでもないです。もう新しい宗教ですよ。

河田 へえー。

サラ すごいのが出てきて。だって知らずに食べればいいじゃない、OK じゃないですか。預言者さまだってこれがどこから来たのかとか、何だったとか聞かないじゃないですか。

須見 詮索するなっていう。

サラ それなのに、そのリトマス紙みたいなものに入れて、「あ、ブタだ」って言ったら、届いたこのお料理をどうするつもりなのかっていう、それを無駄にしちゃうことも。

河田 そうですね。

中村 そう、それが食べられなくて。

サラ ね。

河田 それが最低。

サラ そうでしょ、では「これ駄目だから」ってやるほうが。

中村 それも駄目、駄目です。

サラ レストランは当然捨てますよね、1 回出したものであれば。

須見 いや、もう彼らの基準を言ったらきりがありませんね。一度ハラームなものに触れたものはハラームとか、訳の分からないこと言っている。

前野 それで口では、「日本人とお近づきになりたいんだ」みたいなですね、「なんで自分

らハリネズミやってるんですか」っていう。

サラ 何とかしてほしいです。よろしくお願いします。

一同 (笑)。

前野 えー、優しく時々リマインドしてください (笑)。

店田 ハラールについては、日本には大いなる誤解がたくさん広がっていると思うので、それをムスリムの方が率先して回収していかないと、これからもどんどん進んでいくんじゃないかと。

河田 マスコミがすごく好意的に報道するのも良くないと私は思うんですが。

サラ ハラールに関してね。

中村 ああ、ハラールね。

河田 ハラール認証に関して。

前野 そうですね、利益を高めようというあれですよ。

店田 観光庁ももちろん分かってないですよ、きっと。

須見 今の担当に代わってから…。2年前の担当の時は観光庁も、「ハラールという言葉はガイドブックとかに一切使わないでください」って言っていたんですよ。でも、人事異動があって、今またなんか変な。

店田 おかしな方向に。

須見 そう。

岡井 そうなるとちょっと外部の問題とも関わってくると思うんですが、今のお話は、ムスリムの中でも多様なやり方があるのに、外側が認識できる回路がない。特に非ムスリムの側から見て、そういうのが分からないっていうのも、一つ問題になっているのかなと。

外側から何か好意的に寄っていかうとすると、「わー、ハラールすてきですね」みたいな

ことを言うのも、別段悪意がない可能性があるんですよ。

サラ フッ。

岡井 前浜中さんとお電話していた時に、浜中さんが仰っていたのは、せつかくいいものがあるのに、結局ハラールが日本の社会の中のムスリムを区別することにもなっているし、ちょっと面倒くさいみたいなことにもなっているのではないかというような話がありました。更に外から見ていると、ハラールがあったほうがうれしいように見えると思うんです、一般の人からすると。

サラ それはさっき言った外国人ムスリム、日本語の読めない人たちには、あったほうがそれはうれしいでしょう、きっと。だけど、パッケージを見れば分かることなので。だとしたらパッケージを見て誰でも分かれるようにするにはピクトみたいにするとか、オーストラリアみたいに番号でしたっけ、アルファベットでしたっけ、なんかありますよね。分かるようにとかって、番号とかを使えばいいわけで。

今の日本語の表記だから、外国人は「ハラールマークありがたいね」って言って、そうやってまた、何だっけ、Zさんの所のが訳の分からないアンケートで、「ほらね」って言って、それを企業にまた見せるじゃないですか。

岡井 というか外から見ると、個人のやり方が見えませんよね。例えば、浜中さんが何を召し上がっていて、中村さんが何を召し上がっていて、ていうのが分からないんですよ。

サラ ああ。

岡井 やっぱ耳学問じゃないですが、ネットで「ハラール ムスリム」って検索して、「ああ、なんかハラールなり、認証を掲げている店に連れていかないと駄目なのかね」とか思っちゃうと思うんですよ。

浜中 そういうのはありますね。

サラ だからハラールっていう言葉忘れればいいんじゃないですか、須見さんが仰ったように。誰かを連れていく時に「お肉召し上がりますか」って言ったら、「あ、ブタ以外なら何でも」とか、「いや、お肉全部駄目、全般駄目です」とか仰ると思うので、全然。だって16億人いたら、16億通りのイスラムがあると思うんですよ。



岡井 そう、そうなんですよ。

サラ それを一つにしようとするから、日本がおかしいわけで。

河田 もう私もいつも「そこ、ご本人に聞いてください」って。

サラ ね、そうですね。

河田 アドバイスするようにしたんですがね。

須見 僕香港に初めて行った時、相手の会社の社長さんに聞かれたのは、「食べられないものありますか」って聞かれたの、これいいなと思って（笑）。

中村 まあ、表現悪いですが、好き嫌いありますからね。

須見 そうそう、同じ肉でも、「私はこれ食べれません」っていう。

中村 今、須見さんからもアドバイスが出ましたが、福岡マَسジドでは、ムスリムのほうから働き掛けていってフードカードって作ったんですよ。

サラ フードカード。

岡井 ああ、出しましょうか。あれですよ、Facebook に載せておられるやつですよ。

中村 はい、はい。福岡マَسジドのところ。

岡井 はい、出しました。こんなやつですね。では回しましょうか。

### 食事カード < Food card >

お店の方へ <Dear the shop>,

お願いがあります<I have a request>。私はイスラーム教徒です<I am a Muslim>。日本の料理が大好きです<I like Japanese food>。しかし戒律があつて以下の材料が入っている物が食べられません <but I can't eat food containing the following materials according to the precepts of Islam>。

宜しければ、以下の食材が入ってないお料理を教えてください <tell me please, food does not contain following materials>:

- 1) 豚肉、ラード <pig, lard>
- 2) 牛肉・鶏肉・羊肉 <beef, chicken, lamb>
- 3) 動物性油を使った料理・天ぷら・揚げ物・フライ <tempura, fried food with animal oil>
- 4) お酒、味醂 <liquor, mirin>
- 5) 動物性乳化剤・動物性ショートニング(植物由来は大丈夫です) <animal emulsifier, animal shortenings> (it is OK from plants)

図 4 福岡マシジド食事カード

<https://www.facebook.com/FukuokaMasjid/posts/1035952319781892>

浜中 ああ、なるほど。へえー。それを見せたら、食べられるかどうか分かるということですか。

サラ ああ、なるほど。「戒律があつて」なるほど。

河田 うん、うん、うん。

須見 でもそれもイスラムでくくっちゃっているから。

中村 そうなんです、まあ。

須見 「私は」を付けねばね。

中村 「私個人は」みたいな。

須見 「私個人は」。

中村 コトを分けたほうがいいっていうのを、須見さんにアドバイスされたんですね。いつも日本のお店ばっかに求めるのではなくて。

サラ 名古屋モスクも同じようなものを、こんな感じです（図 5・6）。これは、名古屋はとにかくピクトを使いたいってということで、今これ昇龍道プロジェクトで、名古屋だけじゃなくて。



図 5・6 昇龍道エリアピクトグラム（資料提供：サラ氏）  
個人の希望に合わせて台紙にシール（次ページ）を貼ることができる

 豚肉 Pork	 牛肉 Beef	 鶏肉 Chicken	 羊肉 Mutton and lamb	 アルコール Alcohol
 ラード Lard	 アルコール添加醤油 Soy sauce with alcohol	 料理酒・みりん Cooking sake/ Sweet cooking rice wine	 動物性ショートニング Shortening (of animal origin)	 アルコール 無添加醤油 alcohol-free miso
 ハラール牛肉 Halal beef	 ハラール鶏肉 Halal chicken	 ハラール羊肉 Halal mutton And lamb	 植物性ショートニング Shortening (of vegetable origin)	 アルコール 無添加味噌 alcohol-free miso
 料理酒・みりん Cooking sake/ Sweet cooking rice wine	 アルコール添加醤油 Soy sauce with alcohol	 豚肉 Pork	 アルコール Alcohol	 ラード Lard
 豚肉 Pork	 牛肉 Beef	 鶏肉 Chicken	 羊肉 Mutton and lamb	 アルコール Alcohol
 ラード Lard	 アルコール添加醤油 Soy sauce with alcohol	 料理酒・みりん Cooking sake/ Sweet cooking rice wine	 動物性ショートニング Shortening (of animal origin)	 アルコール 無添加醤油 alcohol-free miso
 ハラール牛肉 Halal beef	 ハラール鶏肉 Halal chicken	 ハラール羊肉 Halal mutton And lamb	 植物性ショートニング Shortening (of vegetable origin)	 アルコール 無添加味噌 alcohol-free miso
 料理酒・みりん Cooking sake/ Sweet cooking rice wine	 アルコール添加醤油 Soy sauce with alcohol	 豚肉 Pork	 アルコール Alcohol	 ラード Lard

浜中 ああ。

サラ 北陸、東海の9県ぐらいでこれを使っていますが、食べられないものは人によって違うので、自分でバツをします。あらかじめ。

中村 これはいいですね。

サラ お酒とブタだけはバツを付けていますが、人によってトリ肉にもバツを付ける人もいるし、お醤油とかの調味料もバツ付ける人がいます。でもそうじゃない人はそのまま。

前野 ああ、いいですね、それ。

サラ こういうその人その人個人の問題であれば、言葉の壁を超えて、日本の飲食店も対応できると思うんですが。名古屋モスクのホームページからでもこれダウンロードできます。

浜中 まあ、いいアイデアですね。すごいな。お店のほうは分かりやすいですよ。

サラ 撮ってください。

中村 なかなか自分では作れなかったもので、こういうふうな。

サラ そうですね。

中村 けどこういうのがあると。

サラ だからこれはまた日本でね、まず、これじゃなくてもいいんですが、やっぱり日本っていう形で広くやっていると、認知してもらえるし、それに対応するお店も当然増えてくると思うので。せっかく日本中、北は北海道、南は九州から集まっているので。こういうことをちょっと決められると、共通のものを作って、フードカードっていうものでもいいです。まずはこの6地域だけでもやれば、また他の地域もきっと乗っかってくる。そうするとこれを認知してもらえれば、ハラールなんていう言葉は要らなくなると思うんですよ。もちろん認証も。

須見 私のなりわいとしてちょっとやっていることで、「多文化共生」とかやっているんですが、ハラールはムスリムだけにスポット当たっているじゃないですか。じゃなくて、全

ての外国人を受け入れるために考えると、それをやれば別に穆斯林も、ヒンズー教徒も、ベジタリアンでも、みんながハッピーになる。

サラ そうですね。

須見 そういう考えでやったほうが絶対いいです。

浜中 やっぱりアイデアが深いですね。

店田 こういうものって例えば、訪日の穆斯林に、観光客なんかの手に渡るものですか。

サラ 空港にはたくさん置いてありますし。

店田 ああ。

サラ あと、そういったツアーで来る方たちには渡せるように、っていう形で今やっています。それとこれは昇龍道プロジェクトっていう、北陸と東海の9県ぐらいですが。でもそれぞれの県が今独自に動き始めていて、ちょうど今回観光庁からの助成金が3カ所、白馬と飛騨、鳥羽に下りることが決定しました。全部この昇龍道エリアなんですよ。なので、どっちみち私ができるのは中部運輸局のほうなので、そうするとちょっと白馬は無理ですが、鳥羽と飛騨に関してはこういう形で進めていきたいなというふうには思っています。

前野 これは地方自治体の側からアプローチがあるんですか？

サラ 中部運輸局です。

中村 それとも、そちらからアプローチをして？

サラ あちらからのアプローチです。最初はそうです。でも最初はもう分厚い、ものすごい骨子案が来て、慶応の時にも言いましたが、ものすごいものが来たので、「やめてください、やめてください、全部削って」って言ったら、おもてなしのやり方に関しては全部で6ページに減ってしまったくらい。全部削っちゃいました。本当はものすごく分厚いものがあつたんですが。これですね、こういった受け入れの心得というのが、全部で6ページしかないんですが、こういうものを作りまして(図7)。「やってもらいたいのはここだけなんです、ブタだけです」っていうことで。

# ムスリム旅行者 受入の心得

Muslim

ようこそ昇龍道へ!



発行：昇龍道プロジェクト推進協議会  
監修：宗教法人名古屋モスク

図 7 『ムスリム旅行者 受入の心得 ようこそ昇龍道へ!』表紙  
([http://nagoyamosque.com/ja/wp-content/uploads/muslim\\_travellers.pdf](http://nagoyamosque.com/ja/wp-content/uploads/muslim_travellers.pdf))

もうあとは、もうその人によって違うのでっていうこと。あと礼拝の場所も用意してくれば、別に別室とか要らないので、ご飯食べる所、お座敷、ちょっとご飯届くまで貸してくださいねみたいなお話だけで、難しいことをしないでほしいっていうフォローが、私はいつもあるんですが。

浜中 うん。

サラ でもそれがやっぱり、沖縄辺りだと 20 ページぐらいありますし、こんなの<sup>(図 8)</sup>。各県がこう、愛知県も 14 ページ。

河田 うーん。

サラ せっかくこのエリアが 6 ページなのに、愛知県ではアセアンセンターが間に入っちゃったんですね。で、観光庁もこういうのを今回作りました(図 9)。それはアクセントアという所が間に入ってしまったもんですから、全くイスラムを無視した状態で、観光庁は今動いています。北海道もありますよね？

須見 古いやつですね。

サラ これ古い。

須見 ね。

サラ あと大阪もあります。東京もありますが、みんなやっぱ分厚いんです。そんなに要らないんです。むしろそんなに難しくないんです。「これ読むと大変だな」ってなっちゃわないように、「ムスリムの受け入れはすごく簡単なんだよ」っていうところを私は分かってほしいので、もうミニマムだけ。あとはもうその人その人で違うのでっていうのが、これなんですけどね。だからそのフードカードは本当に広めていただきたいですし。





図 8 『OKINAWA ムスリム旅行者おもてなしハンドブック』表紙  
[https://www.visitokinawa.jp/oim/sites/default/files/manual/Muslim\\_200dpi\\_0303.pdf](https://www.visitokinawa.jp/oim/sites/default/files/manual/Muslim_200dpi_0303.pdf)

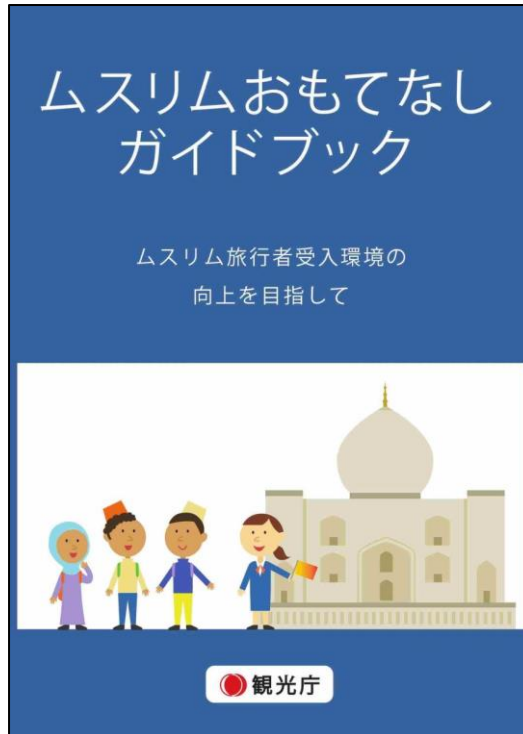


図 9 『ムスリムおもてなしガイドブック』表紙  
<http://www.mlit.go.jp/common/001101141.pdf>

中村 それはいいですね。でも実は弊害があって、須見さんをご存じだと思いますが、お店に出したら老眼で文字が小さくて見えない。

岡井 (笑)。

中村 小さ過ぎるんですよね、実は (笑)。でも大きくてもいいかと思うと、財布には入らない。

サラ そうですね。

中村 財布に入れて持っていけるぐらいの大きさで、コンパクトにまとめてやると。

サラ そうですね。カードぐらいの。

須見 やっぱり、行政のホームページに PDF でダウンロードできるようにして。

サラ そうです、できるといいですよ。

須見 うん、店が印刷して置いておくと。

サラ これも最初はね、30 個ぐらいピクトが並んでいたんです。で、「これ消してください、消してください、これとこれ統一してください」って言ったら、一応取りあえず 9 個ぐらいになりました。やっぱりムスリムじゃない方がやると心配みたいで、どんどん増えていくんです。

須見 うん。

サラ 「そうじゃないでしょ」っていうところなんです。だからムスリムを入れてもらわないといけない。

中村 そうですね。

サラ でもさっき中村さんが仰ったように、宗教法人に関わる、宗教に関わりたくないっていう、そういう国とか企業がどうしても最後に、もう最後で困ったから来るんですね。でも、餅は餅屋に聞いてもらわないと。どうして他にアセアンセンターとかそういう所に行くのか。だから発信をしたいんです、私は。何でも相談に乗ります。もちろん無料です。

タダなんだから私の所に来てください、っていうのをできるだけ発信しているんですが。

中村 すみません、タダっていうのは、企業がですねちょっと心配するんですよ。

浜中 いやこれ、企業や地域によっては出せないんですよ。

中村 新興宗教でそれを以前やって、失敗していますので。

須見 払った方が価値があるわけですね、日本人感覚として。

サラ 難しいですね。

中村 ええ、難しいところがあるんですよ。寄付ならいくらでも頂戴しますという。

サラ そうですね、寄付を頂ければいいですね。

店田 はい、あと 30 分ぐらいの時間なので、こちらとしても聞きたいことがたくさんありますが。取りあえず最後の地域との関係に入りたいと思いますが。ではまた前野さんに口火を切っていただきますか。

前野 いや、実際は時間がなくて、そういう地域の交流活動に関わりたくても、関われないものですから、実際関わっておられる方にお話を伺いたいです。

店田 名古屋はどうでしょうか。

サラ すみません、私ばかりしゃべっちゃうんで、ちょっと静かにしようかなと思います。

店田 いやいや。では短く、取っ掛かりだけ。

サラ あ、はい、今お渡ししたのは慶應の会でお話ししたことのメモです。星印は新しいんですが、地域は新しいことがあまりなくて。何にしても地域と交流するんだって、まず、ご近所の方をひたすら呼んでいます。モスクに入ってきていただきます。「あそこは怪しいぞ」っていう雰囲気のないように。ですからイフタールの時には、もうここぞとばかりにお食事に来ていただきますし、それ以外にもモスク見学会みたいなのも随時やっています。

そうすると、ホームページや Facebook にも書きましたが、ご自分でやっぱり調べていらっしゃるって、ご近所のおじいさん、おばあさんなので、あまり厳しいことは言いたくない

なと思って何も言わなかったのに、皆さんスカーフを手にしてらっしゃって。すごいなど。で、男の方に至っては、「ウドゥーをしないと入っちゃいけないですよ」とか。「おおっ」と思って。やっぱり関わることによって、皆さんいろいろ調べてくださって…、というふうになるので、できるだけ関わっていきいたいなということ。

ホームページや Facebook に常時上げておりますので、時々名古屋モスクを思い出して見ていただくと、「お！お餅つきしてるわ」とかそんな感じのが、映像が見られると思いますので、ぜひご参考にしていただければな、と思うのが一点。

短めにと言われたんですが、もう一点。アハマディアのモスクができました。

店田 ああ。

サラ これどうしたらいいでしょう。今日ちょっと皆さまに。

須見 無視、無視。

サラ お話をしたいんです。

須見 話題にまで。

中村 どんなモスクなんですか。

サラ えーとですね、日本最大のモスクという触れ込みで。

須見 はい、メディアを意識した。

サラ 日本最大のものですから、とにかくメディア戦略がすごい団体なものですから。

須見 知事まで来ていましたよね。

サラ 愛知県知事からは電報でしたが。

須見 電報でした？

サラ 国会議員の方が。

須見 岡井さんも出ていましたね。

サラ 「無視」って言われる地域はいいんです。ただ名古屋モスクは近いので。モスク、イスラムに興味がある方は、まずホームページを調べます。検索すると、アハマディアと名古屋モスクが出てくる。日本最大のモスクと名古屋で一番古いモスクと、どっちに行ったらいいかで迷うんだそうです。人によっては両方っていう方がいる。向こうを選んじゃった方は、私は全くノータッチで分からないんですが、向こうをやめてこっちに来たっていう人は良かったなと思います。

でも両方行った方に聞くと、入るといきなり写真がいっぱいあって、モスクなのにですよ、偶像礼拝禁止のモスクに写真が、アハマドさんの写真がいっぱい飾ってあるようなモスクで。無邪気に「ハッジ行ったことありますか」って聞くと、「ありません」って仰るんですね。それムスリムじゃないですから、メッカ入れないんですが。

で、ムスリムっていうんですよ。日本最大のモスクってコマーシャルしちゃうんですよ。そうすると興味のある人は、なぜか行ってしまうっていう恐ろしい事実がありまして。これを私はモスクとして、アハマディアに危害、危険とか書くわけにいかないんですよ。それはけんかを売ることになる。おかしいじゃないですか。

で、それこそまたシェアをしようと思ってやったんですが、東京大学の池内恵先生のFacebookのコメント<sup>9</sup>が、前半だけすごく秀逸だったんです。それをシェアしたいんですが、後半がめちゃめちゃなんです。後で皆さんにシェアしますので読んでください。それを載せてしまうとモスクの見解になってしまうので。どなたかにやっぱり、それこそモスクっていう立場じゃなく言える方に、「アハマディアは違うよ」って書いてもらえると、シェアするっていう形ならできると思うんですが。モスクとして、「あそこは間違いだ」って言うことができないっていうつらいところがありまして、それをどうしたらいいのかなど。

これちょっと、アルジャジーラのこれ酷いんですよ、アルジャジーラですよ、アルジャジーラの記事なんです、これが。日本最大のモスクがオープンしたと。この写真見たら日本最大っぽいですよ。まあ本文を読むと、日本にはたくさんモスクがありますっていうことだから、まあ使ってもいいんですが、タイトルは明らかにこれ、「ジャパンズ・ニューエスト・アンド・ラージスト・モスク・オープンズ・イツ・ドア」<sup>10</sup>。てことはこれ、アハマディアの件なんです。

河田 で、それ、東京ジャーミイの写真を使って。

店田 東京ジャーミイですね。

---

<sup>9</sup> <https://www.facebook.com/satoshi.ikeuchi/posts/10204047776993766>

<sup>10</sup>

<http://www.aljazeera.com/indepth/features/2015/11/japan-newest-largest-mosque-opens-doors-151125132433610.html>

サラ こんなのがアルジャジーラですよ。だから日本のメディアに関しては推して知るべしの状態です。もうどこのメディアもたくさん、岡井さんがいらっしゃるといいんですが、たくさん来ていたそうです、初日のオープニングセレモニーにいらっしゃって。で、もういろんなメディアが来ていて。

で、その日の名古屋の新聞はすごいですよ。日本最大モスク、日本最大モスクって。で、それ読んだ名古屋の人たちが、みんなあっちに行くんです。あるいはこっちに来た人も、向こうへ行ってきましたとか、あるいは聞くんです、「日本最大のモスクできておめでとうございます」って。何もめでたくないんです。

前野 (笑)。

浜中 ですよ。

サラ これ、どうしたらいいですか、皆さん。無視したらいいというのはそうなんですが、名古屋にいるイスラムに関心のある人たち、それもあっちに行くのを無視しとけばいいですか。

須見 淡々とですね、例えば検索ワードで名古屋モスクが上位に来るようにして。

サラ SEO (検索エンジン最適化) 対策して。

前野 (笑)。

須見 で、淡々と、イスラムとその他の宗教っていうようなページを作ってですね、仏教徒が見られて、で、「イスラムはこうだよ」って、イスラム以外の所にね、「キリスト教団体とかアハマディアとか入れちゃえ」とか、淡々と。

前野 定期的に、ポイントの大事なところで、「ムハンマドさま以降預言者は今おりません」っていうような、そういうメッセージを繰り返し…、ですとか。

店田 アハマディアにハラール。

(一時退席していた岡井が戻る)

サラ 今アハマディアなんで、岡井さんを待っていたんです。

須見 ええ、待っていたんですよ。

岡井 そこで振りますか。

サラ うん、何とかお待ちしていた、私一人で熱弁していたんですが。

店田 やりだすと、なんか時間終わっちゃいそうですが。

中村 終わった後の懇親会で話しましょう。

店田 ああ。

サラ 分かりました、はい、了解です。はい、失礼しました。

店田 はい。私も実は見てきました。

サラ すみません、かき回しました。

店田 もう一度、地域に戻ります。地域での交流とか情報発信ということでは？

前野 すみません、名古屋マスジドとかホームページの充実が素晴らしいと思うんですが、例えば名古屋マスジドがやっておられるのは、全然アウトソーシングすることなしにご自分たちでやってらっしゃる。

サラ もちろん、ご自分たちっていうか、ご自分ですね。

前野 あ、もうサラさんが！

サラ 夜中に一人でやっております。だって日本語できる人がいないんですよ。

前野 なるほど、そうですね。

サラ 結局そこですね。

中村 福岡マスジドではちょっと最近の動きで、町内会とけんかをしました。

須見 え、とうとう？

中村 やっちゃった、やりました。

須見 原因は？

中村 まず一昨年、会長が変わったんですね。で、他の役員はずっともう福岡 Masjid と親密にやっていたんですが、会長が疑い深い人で、「モスクにはテロリストが来ているんじゃないか」って何度も繰り返し聞くんですよね。

そしたらそばにいた、ガーナ系日本人が涙流し始めたんですね。「自分の妻や娘がこの人たちにテロリストと間違えられるなんて」ってことで。16 億人いるうちのテロリストが何人か、で、そしてそういう人たちが果たして日本に来るかどうか。警察も来ないと言っているし、他の役員もそうなのに、その人はそれが心配で心配で、って。で、こちらもカチーンときて…。で、町内会費がモスクだけ高いんです、実は。1 軒 500 円なのに、モスクだけ 2,000 円取られるんですよ。

サラ へ、なんで？

前野 なんでですか？

須見 事業者扱い？

中村 いわゆる事業者扱いって言いますが、うちは利益団体じゃないし。で、「駄目ですよ」と言ったら、「いや、世帯が大きいから」って。「うち何人住んでると思います？誰も住んでないですよ」って言って。「お宅マンション持ってて何人住んでます？」って言って。

で、それは以前からいろいろ言っていたんですね。でも、あまりことを荒げ立てても大変だからって言うこと言っていなかったんですが、会長が変わって、会長がそういうふうなことを言うから、「払いません」って言って。「払うなら 500 円にしてください」って言って。で、「500 円にしてくれなければ町内会抜けますよ」って言って。そしたら、その会長が中心になって、「抜けていただいて結構です」って。で、その代わりに、「こういうことをやって、守ってください」という文書を交わすという…。いわゆるまあ、車の問題とか、騒音の問題とか。ただこれはもう、「一番最初建てる時に合意していますから、あらためてこういう文書を交わす必要ありません」って言って、物別れしたんですが、警察が間に入って…。で、他の役員と話して。

町内会は正直言って、今あまり力がないんですね。ご存じかもしれませんが、何ら周り



の人たちのコミュニケーションの結び付きの役目をしてないんですね。お年寄りばかりなんですよ。ですから、正直言って必要性はあまりないと思っていたんですが、役員の一人が、「これから文句ある時は匿名で電話するぜ」って言ってきた。「あ、分かりました、匿名の電話があったら、あなたからですね」って。

一同 （笑）。

中村 それもあって、よくよく考えると、モスクに対しての何らかの苦情を言う場合の道筋というか窓口がないんですね。

で、そうなってくると、これはいけないってことで、では一応話はこれからもやります、年に2、3回ぐらい。で、どうか、周りの人の苦情があったら、町内会でまとめて私たちのほうに言ってきてください。で、これからそういう関係でいきましょうというような、感じで少し変わってきました。で、それ以外に関しては、実は学校関係とか企業関係とかは、よくモスクに来ていただいてセミナー等やっていますので、だんだんイスラムのことは知っていただいていますね。高校の先生とかがやっぱり、総合学習とかいうふうなことで、僕たちが数回にわたって学校に行ってレクチャーしたりとかいう形で、いろいろやっています。で、その後学生が来たりとか、僕たちの所に。店田先生と岡井さんが、以前福岡地域の外国人に関する調査をされた時に。先生方が言われたのは、もう新聞とかテレビを見ないような若い人のほうが、頭が柔らかくてもう漏れなくやってくるって。

店田 （苦笑）。

中村 ですから、若い人をターゲットとして、地域でも頑張っていこうかなというような感じで、やっています。

店田 それ、町内会とかもう確かに福岡に限らず、どこでもそんなに地域に対して大きな影響力は持ってないみたいですからね。でもこれまで一応メンバーに入っていた。例えば金沢も確か入っているし、他の所はメンバーに入っているんじゃないですか、町会に。

須見 町会は札幌入っています。

前野 行徳も入ってですね、町内会のイベントでカレー屋さんを出して。それは人気を博していたんだそうですが、少ない成功の一つです。

中村 そうね、行事もないですね。

浜中 新居浜は町内会っていうのはないと思うんですが。

店田 ああ、そうなんですか。

浜中 商店会みたいなのはあるんですが、商店街なんで。商店会のうちも、店として入っ  
ていて。

サラ 店として。

店田 はい、事業として入っていますよね。

浜中 はい、で、 Masjid は飾りみたいな感じに見えると思うんですが。町内会はないで  
すね。松山のほうはありますね。以前は周辺から、何ていうんですかね、住宅地だったん  
で苦情がたくさん来て大変だったんですが。で、今の所に移って、今の所もあまり良くな  
くて、今、 Masjid をどっかに買おうということで、お金も集めてやりよんですが、今の  
ところやっぱり商店街かこういった大通り沿いで、どっからも苦情が出ない所にしようと、  
お金は掛かってもいいからそっちにしよう、ということでやっています。

今のところは、うまいこと周辺とやっていますが、集まり過ぎると苦情が出てくるん  
です。だから礼拝は、100 人ぐらい集まりますので、あえて学校のホールを借りてやっ  
ています。で、集会所としての Masjid なんです。それこそ日々の礼拝は大体やっていま  
す。20 人ぐらいだったら何とか入れるので。

店田 そういう活動とか、あるいはさっき名古屋でも紹介のあったイフタールに招待する  
とか、モスク見学会とか、大きなモスクでは大体そういうことをどちらもやってらっしゃ  
ると思うんですが。

浜中 イフタール、うちもたまにはやります。1 カ月のうち 1 回か 2 回は。

前野 うち文化ホールを使用して、一般の人たちにも来てもらいますが。そこで寸劇を  
披露していきたい、っていうのがありますので。

店田 ああ。

前野 まあ、寸劇は割りと、スピーチ、トークじゃない形でのメッセージ伝達なので、よ  
り構えることなく受け入れていただけているかなと思います。

浜中 まあ、そういうところもそうですね、うち、例えば新居浜は町が小さいですが、国際交流活動みたいなんでやると、どうしてもムスリムが一番中心になって、いい感じでみんなと接してはいますね。

店田 ムスリムの方が一番多い？

浜中 いえ、多分中国人とかフィリピン人とかのほうが多いと思いますが、国際交流活動っていうのに集まるのは、やっぱりムスリムが一番多いんですよ。

店田 ああ、そうなんですか。

浜中 ブースとか出すとかですね、やっぱりまとまりがいいというか。民族別にポンポンとブース出したりして、結構協力しているんでその点はいいかと思いますね。もうちょっと町が大きくなったらちょっと別でしょうが、ちょうどいい小ささなんで、良かったですよね。集まりやすい。

店田 まあイフタールなんかは各モスクでやってらっしゃるんですが、例えば東京ジャーミイで、私は直接行ったわけじゃないんですが、抽選みたいな形になるんですか。

サラ 事前申し込みをすれば大丈夫です。

店田 ああ、事前申し込み。なんかそんな感じで、かなり人気があるともお伺いしますが、他のモスクはどんな感じなんでしょうか。イフタールは、その地域の方がそんなに押し掛けるような感じなんですか？

浜中 いや、どうでしょう。

店田 そこまではないんですかね。

サラ 前もってご予約を。地域だと町内会長さんがいっぱい率いてくるので、そういう場合は前もってご予約をいただいて、その分多めに作って、品数も増やして、その時だけちょっと豪華に。

店田 ああ、なるほど、豪華にして。

サラ はい、お呼びした時のメニューとかもホームページに出ています。見るとすごく豪

華なメニュー。でもいつもそんなじゃないんですが。で、あとは発信ってさっき言いましたが、とにかく学生さんたちにモスクに来てください、っていうスタンスなので、名古屋モスクは。で、学生さんでも生徒さんでも、あるいは先生方でも、興味がある方はどんどん来ていただいて。イフタール、1年待つのは大変ですので、毎週土曜日の夜もご飯出していますので、「土曜日でもいいから来てください、とにかく一緒にご飯を食べてください」っていう。「年に1度のイフタールだけではなく、毎週土曜日どうぞ来てください」って言うと、「こないだ見学に来た者ですがいいですか」っていうようなメールが来たり、お電話が来たりするんで、「どうぞどうぞ」って言って。とにかく来ていただくと、仲良く、私がいっぱいしゃべるよりも、こう両隣に座ったいろんなムスリムがいろいろしゃべってくれて、アットホームな感じで、っていうふうにムスリムを生で見させていただくと、考えも変わってくださるような気がします。

店田 なるほど。名古屋もあるいは福岡もそうですが、高校生対象に活動をやってらっしゃる。

中村 これ私たちから働き掛けることはないですよ、実は。学校の先生が興味を持っておられて、公立高校、私立高校問わず、マシジドにレクチャーを要請されてこられます。総合学習とあと留学がある学校。高校で留学するんですね、何カ月間か。で、留学する前に、キリスト教圏が多いんですが、キリスト教だけでなく、やはりイスラム教徒もいるから、「ムスリムのことも」ってことで毎年来てもらってたりとか。

で、今度の2月ですか、仏教系の学校から英語の先生が、仏教だけでなくキリスト教、イスラム教、三大宗教のことを生徒に勉強させたいからということであらっしゃる。また修猷館っていう進学校があるんですが、そこで4回やったうち、一度は岡井さんにも来ていただいて。

岡井 ああ、その節はありがとうございました。

中村 で、そこの先生が感想文を採ってくださった。そしたら、イスラムについて誤解していたっていう高校生たちがいて、「何回かのレクチャーで考えやイメージがころっと変わった」っていうんですね。で、人数は20人ぐらいです。でも友達がいるので、彼らを通してイスラムに対する意識とかもどんどん変わっていく、みたいな。で、すごく私たちは先生方に感謝している状況です。でもこれホームページには載せてないんですよ、実は。

サラ 載せましょう。

中村 ええ、扱いもあるのでこれからちょっと相談してですね。

サラ 私は、あえて感想文を皆さんからいただいて載せる、ちょっとあざといやり方をするんですが<sup>11</sup>。感想文を載せると、「ちょっと怖かったが、行くのが怖いが」っていう人が無事生還できたんだっていうのが分かります、「じゃあ行ってみようかな」っていうふうになると思うので、過去2年分ぐらいダーッとホームページで見られるようになっていて。ちょっと今日、夜にでも「名古屋モスク 感想」で検索していただくと、いろんな高校生、大学生の感想が出てきます。私がいつも目指しているのは、来る道と帰る道でイスラムのイメージを変えていただきたい。「来る時には怖かったイメージを全部捨てて帰ってくださいね」っていうふうに、いつもお話ししてはいます。で、多分成功しているんじゃないかなというのは感想から分かります。そういう感想を載せることで、多分次の方も、あるいは先生方も読まれて、じゃあうちの子どもたちも連れていこうとか、あるいはお呼びしようか、ってなると。私たちからは行けないじゃないですか。さっき中村さんが仰ったように、こっちからはできないんですよ。で、押し掛けていくわけにいかないの。でも向こうから「来てください」とか「連れていきます」って言ってくれたら、この時とばかりに。私、ネズミ講方式って呼んでいますが、30人来てくれれば、この30人が家に帰ってまた親に言う、友達に言う、またその人が…、っていうふうにどんどん増えていく、っていうふうに考えると、もう本当に一人でも来てくれたらありがたいんで。そうやって考えるとやっぱり来てくれるチャンスを、入り口を広げなきゃいけないっていう意味では。

中村 そう、そうなんですよ。

サラ もうウエルカムだってアピールをしたほうがいいですね、本当にどこのモスクも。みんな来てみたいと思います、多分。

中村 若い子も、割りと怖いっていう印象があるんですね。

サラ お母さんが行かせたくないって。こないだ一人～～高校の生徒のお母さんが、「生きて帰ってこれるよね」って言ったっていう話を、次の日に来た京都大学の大学院生に言ったら、「あ、僕も終わったら電話するように言われてます」って言われて、大学院生でもそうなんだと思って。

中村 いやー。

---

<sup>11</sup> <http://nagoyamosque.com/readme/visit/kengakukansou>  
<http://nagoyamosque.com/readme/visit/kengakukansou2015-1>  
<http://nagoyamosque.com/readme/visit/kengakukansou2015-2>  
<http://nagoyamosque.com/readme/visit/kengakukansou2016>

サラ みんなこんな感じですよ。

中村 いや、でも、正直言って私もそうです。暗がり、ひげモジャモジャの、体が大きいのがヌッて出てきたら。

一同 (笑)。

サラ まさに。

中村 いや、まだひげ少ないが、やっぱ怖いすもんね、知っていても。一瞬ドキッとします。だからやっぱり、全然内実を知らない人たちからすると…。

サラ そうですね、だから感想を載せて、いつでも入れるよっていうのを見せる。ここに本人の名前がなくても学校名があれば、これは嘘じゃないなって思ってくれると思うので。ぜひ発信をしていくといいなと。

店田 さっきの福岡モスクの場合は、学校側からそういう依頼があって。

中村 あります。で、やると。基本的にこちら側から布教活動ってやってないんです。全て向こうから来たので、やっております。

サラ ラッキーじゃないですか。

店田 行徳なんかでも、そういう学校から？

前野 いえ、あいにく。

店田 ICOJ はいかがですか？

前野 まあ、あるのかもしれないですが、残念ながら日本語のできる人間が常駐してないのですね。

店田 ああ。

前野 で、今。私のところにも届かないですし。届いたら届いたで、サラリーマンやって

いる以上…。

中村 学校の場合は、平日に行ける人を確保しとかなきゃいけないんですよね。

サラ 呼んでください、東京行きますから。

一同 (笑)。

店田 札幌なんかにもそういう感じのお願いとか、来たりはありますか？

須見 札幌の場合は、ホームページを英語版と日本語版のプログラム、意図して分けて作っているっていう。日本語しかできない人は、私の携帯とメールアドレスに。名前を世界に公表していますので。

サラ 大変。

須見 (笑)。なので学校からも来るし、それこそおじいさんおばあさんの勉強会にだとか、企業さんからも来るし、その対応をしています。で、あと、皆さんも同じだと思いますが、やっぱりご近所とのいざこざっていうのは、自転車、車の違法駐車。

中村 (笑)。

須見 あと、金曜日の歩道の占拠(苦笑)。これはもう永遠のテーマですね。いくら言っても直らない。

中村 いや、今、金曜日にボランティアで3人ぐらい人を出していて、ここに福岡 Masjid ドって腕章を作って、外に立たせているんですよ。ムスリムが自転車とか車を近くに止めないように。

前野 素晴らしいですね。

須見 札幌も1回やりました。それっていうの、それが駄目だって言う人がいて…。

サラ え？

前野 ええ。

中村 今のところみんなおとなしく従っています。また留学生ですから、半年に1度変わってしまいますし、パキスタンの人は仕事の関係で異動したりしていますから…。

サラ 名古屋は、違法駐車はほとんどないですね。聞かないですね。

前野 素晴らしい。

サラ 警察にお願いして、「どんどん持ってってください」と言っています。うちのスタンスはそれですということでアナウンスもしています、金曜日。ですからもう、覚悟の上で止めているってということだと思うので、なくなりましたね。だから今、本当に駐車の問題がないです。

須見 札幌の場合はですね、路上じゃなくてですね、隣の敷地に…。

サラ ええ！？

須見 むちゃくちゃです。

中村 近くのスーパーとかに止めるんですよ。

須見 隣の空きビルに、はい、酷い時は8台ぐらい突っ込んでいて。

中村 ひどいですね。

須見 それを先導するムスリムがいますよ、「ここ止められるから」って。

サラ それは「出ていけ」って言われますね、それは近所の方？

須見 うん、それもここもう6年ぐらい続いています。

中村 そのうち石投げられるんですかね…（苦笑）。

須見 もう人間性の問題ですからね（苦笑）。

店田 まあ、そういうトラブルはなかなかなくなるらないんですね。



中村 そうなんです。人間性の問題なのに、モスクに文句言ってくると。で、「モスクはこれだけ対応しています」って。そしたら、「努力が足りん」って言われるんですよ。「ちょっと待てよ」と。

須見 そうなんです。

中村 できることとできないことをね、理解してくださいと言って。

サラ 名古屋モスクはドアの外側に、「違法駐車やめましょう」とか、「外で携帯でしゃべってる、たむろするのやめましょう」っていうのを、中じゃなくて、外向けに貼っています。

つまり「うちはちゃんと対応していますよ」っていうのを、通り掛かりの人たちが分かるように、ガラスドアの外向けに、誰に向けているんだっていうぐらいやっていますね。そうするとちょっとは、「対応してくれるんだろうな」って言って、文句言いに来た人がそのまま帰る可能性もあるかなと思って。

浜中 もちろん路上礼拝はやってないんですよ。

サラ 祝日に当たると、うち 200 人ぐらいしか入らないので、入り切れなくなっちゃうんです。

浜中 すごいですね。

サラ 普通の金曜日は全然いい。

浜中 屋上までも、やっていますよね。

サラ 屋上も入るんですが、祝日に当たっちゃうと、いつもは来られない人がこの時とばかりに来るもんですから、「もうやめてください」って、最初はやっぱり立っているんですが、始まるとみんな引き上げちゃうので、そうするとあとから来た人がもう好き勝手に。

浜中 路上礼拝。

サラ もうこれは本当に困りますね。

浜中 はい、僕もやりました。

サラ 道交法違反ですね。

浜中 怒られました。

サラ あ、やったんですか。

浜中 「そこじゃ駄目です」って言われました。「いや、このモスク小さ過ぎるわ」とか言  
って (笑)。

サラ すみません、ちっちゃい場所しか買えなくて。

店田 はい、えっと、これ5時で終わらないと。

岡井 一応、取りあえずのきりは5時っていうことになっております。

店田 取りあえずのきりは5時ですか。

岡井 はい。

店田 はい、ではまあ、中途半端な終わり方でしたが、その時結論が出るような話でもな  
いので。

サラ 結論ね。認証の結論出して…。

店田 一応三つの話をして。

須見 あるいは情報発信していきましょうという。

サラ はい。

須見 共同合意で (笑)。

サラ そうですね、やっぱりホームページを作ってくださいと。

店田 ハラールについてはなにか共同合意が出来たのかもしれない。

サラ ぜひ、ぜひ。

浜中 でも、揃えられないでしょうね。

サラ え。

浜中 いや、みんなそれぞれの判断で。

店田 広い意味での教育で皆さん頑張ってくださいという。地域の方に関しては大変なこともまだこれからありますが、これからも頑張らしようという。ということでこの会を締めたいと思います。

サラ どうもありがとうございました。

店田 では、ありがとうございました。

中村・岡井 ありがとうございました。

(了)



会議を終えて





## 2. 『ムスリム旅行者受入の心得 従業員編』（前半）



**ムスリム旅行者  
受入の心得**  
従業員編

ようこそ昇龍道へ!

国土交通省 中部運輸局  
(宗教法人名古屋モスク 監修)

これだけは知っておきましょう!

### ムスリムへの対応方法

**接客 おもてなし**  
ムスリムの戒律を理解した上で日本ならではのおもてなしをしましょう。

**厳格な性倫理に配慮する**  
ムスリムは性に対し厳格であるため、客室の有料ビデオ、ポルノ写真等が掲載された雑誌などの設置は避けることが求められます。

**異性に接触しない**  
ムスリムは家族・親戚以外の異性とは接触ができないことから、握手も含め、配慮が必要となります。

**接客に配慮する**  
ホテル・旅館等、ムスリムの女性が、男性スタッフに案内され、客室に二人きりになる場面はできるだけ避けるようにします。どうしても避けられない場合は、ドアを開けておくなどの配慮が必要となります。

**化粧室の使用方を説明する**  
ムスリムは男性でも個室のトイレを使い、用便の後に陰部を洗浄する習慣があります。ウォッシュレット等の自動洗浄機能の使い方がわからないムスリムが多いので、説明書きを掲示するとよいでしょう。

**近隣のムスリム向け施設の情報提供**  
近隣のムスリム向けのサービスを情報している施設の情報を提供できるとよいでしょう。

**公衆浴場 温泉の利用**

**温泉の時間貸しまたは、家族風呂・個人風呂の部屋を活用する。**  
ムスリムは温泉に入りたいという希望はあるものの、人前で裸になることができないため、敬遠されています。家族風呂や個人風呂がある施設では、それを有効に活用することが望まれます。

**買い物**

**豚由来成分、動物由来成分(ショートニング、ゼラチン、動物性油脂)の使用を明確にする。**  
土産菓子、化粧品等、原材料がわかるような英語表記あるいはピクトグラム等で明示できるとよいでしょう。また、原材料は豚由来成分、動物由来成分の使用がわかるようにするとよいでしょう。さらに、事前に製造元の間合せ先を示しておくとうれしいでしょう。ムスリムが安心して購入出来る物品を集めた特設コーナーを設けると、安心して利用できるようになります。

**礼拝**  
ムスリムに欠かせない礼拝しやすい環境でおもてなししましょう。

**簡易的な礼拝スペースを用意する**  
ムスリムは1日5回、礼拝を行います(夜明け前の礼拝、昼の礼拝、午後の礼拝、日没時の礼拝、夜の礼拝)。礼拝の時間は太陽の動きにより左右されますが、インターネット等でその時間を調べることができます。①量ほどの礼拝専用の部屋(さらに可能であれば、男女別の部屋)があれば申し分ありませんが、専用の部屋でなくとも、清潔で静かな部屋、あるいは様々な用途で使われているスペースでも代用は可能です。清潔で静かな場所であれば、土間でも屋外でも、どのようなスペースでも礼拝は可能です。

**ウドゥ(手足の洗浄)のための手洗い場等を提供する**  
礼拝の前には、手・口・鼻・顔・腕・髪・耳・足を水で清める必要があるため、可能であれば礼拝室や礼拝スペースの近くの洗面台(可能であれば足が洗いやすい水場スペース)を提供するとよいでしょう。周辺が水で濡れる事を理解し、あらかじめスリッパ、タオル、ペーパータオルを用意しておく配慮があるとよいでしょう。

### 3. 『Hida Takayama Travel Guide for Muslim Visitors』 (前半)

**Muslim Welcome Spot (Shirakawago)**

Even Shirakawa IC is 45 minutes in Shirakawago IC from the Seisengei parking lot passing

**Legend**

- Road way
- Bus stop
- Toilets
- Disabled toilet
- Temple
- Shrine
- Parking lot
- Historical monument
- Information Center
- View point

**Muslim Welcome**  
Shoryudo Area

## Hida Takayama Travel Guide for Muslim Visitors

The Hida Takayama area is one of the most popular destinations in the Shoryudo region for Muslim visitors. Here is some useful information for Muslim visitors about food, hot springs, souvenirs, and more.

**Japan. Endless Discovery.**

Editorial supervision : Nagoya Mosque  
Issue : Chubu District Transport Bureau  
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

**1 Home made Soba Noodle Restaurant Sotogaya**  
手打ちそば屋 そば24

**Menu for Muslim**

S 1 (+81) 5769-6-1228  
T 11:00am-10:00pm (closed on Wed, Thurs, Fri & 1st half Nov, Dec)

**2 Kita no syou**  
お食事場 基土の庄

**Menu for Muslim**

S 2 (+81) 5769-6-1155  
T 11:00am-2:00pm. No regular closed days

**3 156 restaurant Lucky**  
156レストランラッキー

**Menu for Muslim**

S 2 (+81) 5769-6-0026  
T 11:00am-2:00pm, 7:00pm-9:00pm. No regular closed days

**4 Shirakawago no yu**  
EVI川の湯

**Menu for Muslim**

S 2 (+81) 5769-6-0026  
T 11:00am-2:00pm, 7:00pm-9:00pm. No regular closed days

**Business hours:** Closed days, Restaurants, Shopping, Accommodations, Tourist Attraction, Others

### Travel advice

**Look for this symbol**

**Muslim Welcome**  
Shoryudo Area

Facilities and business with this symbol welcome Muslim guests. The space for worship, pork-free/alcohol-free menu, and/or Halal meat is available at facilities and businesses displaying this symbol. For more details, please see the information for each facility.

**Travel advice for Hida-Takayama area**

**[Places of worship]**

- There are facilities that provide prayer space.

**[Wudu]**

- Since there are few dedicated facilities for Wudu in Japan, it is advisable to perform Wudu before going out.
- When performing Wudu in Japan, please be careful not to splash water too much in the washing area. Please take care so that the next person can also use the place comfortably.

**[Food & drink]**

- There are many Japanese dishes that you can eat without anxiety such as sushi, tempura, soba (buckwheat noodles), udon (wheat noodles), fish and shellfish, etc.
- "Mirin" (sweet cooking rice wine) is a common seasoning (alcohol) used in Japanese food. However, it evaporates when cooked.

**[Souvenirs]**

- Some souvenirs contain lard, gelatin or emulsifier (shortening) with a pig-derived ingredient.

**[Restrooms]**

- Toilets equipped with an automatic cleaning function (bidet) can be found almost everywhere in Japan. At the push of a button, water is sprayed automatically for cleansing.

**[Public baths/hot springs]**

- In a Japanese public bath, you take off all your clothes to take a bath. In principle, it is not allowed to have your swimsuit on or a towel around your body.

**[Wi-Fi spots]**

- Free Wi-Fi spots are scattered around Japan. Wi-Fi is available at hotels, restaurants, beverage vending machines, etc.

**Muslim Welcome Spot (Okuhida-Onsengo)**

**Legend**

- Service
- Space for worship available
- Menu for Muslim
- Using Halal meat
- Telephone No.
- Credit card
- Reservation
- Bus stop

**1 HIRAYONO-MORI**  
ひらのの森

**Menu for Muslim**

S 1 (+81) 578-89-2794  
T No regular closed days

**2 OKUHIDA GARDEN HOTEL Yakedake**  
奥日高リゾートクラブ

**Menu for Muslim**

S 2 (+81) 578-89-2811  
T Open all year

**3 HOTEL HOTAKA**  
ホテル穂高

**Menu for Muslim**

S 2 (+81) 578-89-2200  
T Open all year

**4 SHINHOTAKA ROPEWAY**  
新日高ロープウェイ

**Space for Worship**

S 2 (+81) 578-89-2252  
T Not accepted R Not required  
C Depending on season. May be closed due to weather

4. 『Gifu Gourmet For the Muslim Traveler』 (前半)

**GIFU GOURMET**  
FOR THE MUSLIM TRAVELER

## Welcome to Gifu!

This guide is intended as an introduction to the gourmet cuisine of Gifu Prefecture, including a selection of Muslim-friendly restaurants and hotels in Gifu. So long as you have this guide, you will be able to plan a trip through Gifu that is perfectly tailored to your own needs. Pack your bags; you're in for the journey of a lifetime!

**NAGOYA MOSQUE**  
Chairman of the Board of Directors  
**Qureshi Abdul Wahab**

*Assalamu Alaikum*  
Welcome to Gifu Prefecture! With the UNESCO World Heritage Site of Shirakawa-go and the historic old town scenery of Takayama, Gifu is home to many unique and varied locales that can be found nowhere else. The area is also abundant with rich culinary traditions, and many dishes can be arranged to suit Muslim needs. A trip through Gifu with this guidebook in hand will make for a journey to remember, and we hope it helps you make the most of your time in Japan.

**Bab al-Islam Gifu Masjid**

Completed in 2008, this was the very first mosque to be built in Gifu Prefecture. Close to Gifu University, it sees frequent use by the Muslim students that study there. In addition to the five worship services held each day and group worship on Fridays, they provide counseling and marriage services as well. We hope you will take a moment to stop by on your journey.

📍 Higashimachida, Fushichba, Gifu City  
☎ 050-269-7041  
🌐 <http://en.nagoyamosque.com/gifu-masji>

**Hanamaza Pan** is a halal bakery that is popular with both Muslim people and the locals. It would make an excellent stop on your trip to the mosque.

📍 2-84-2 Shikie, Gifu City  
☎ 090-1751-8225 🕒 Monday – Friday, 11 pm – 5 pm  
🌐 <https://www.facebook.com/hanamazapan>

### Gifu Spot Map

### The Perfect Souvenir

Gifu is home to a wealth of delicious confections, meaning that there are also quite a few that would be perfect to take home as a souvenir. Whether as a gift for someone back home or a treat to remember your journey by, you're sure to find something appetizing.

**Miso Senbei**

Mixing miso into a mixture of flour and fresh eggs is all it takes to create this local spin on Japan's traditional senbei cracker. The secret to its unique deliciousness is the combination of its crispy texture and the unmistakable scent of miso.

**Kaki Youkan Persimmon Jelly**

Jelly made by adding a combination of bean paste and sugar, called *youkan* in Japanese, has been a popular treat in Japan since long ago. By adding persimmons to the mixture, this traditional confection explodes with a whole new flavor.

**Ayugashi**

Made by wrapping a rice cake in springy cake skin, this *ayugashi* ("ayu confection") treat from the Gifu City area is designed to resemble the ayu sweet fish that swims in the Nagaya River that flows through the prefecture.

**Kayurigaki**

Dried persimmons with a sweetness that seems to spread throughout your mouth the more you eat. Great not just as a snack, but also as a cooking ingredient.

**Kurikinton**

Made by hardening a combination of sugar and ground chestnuts, this elegant confection is known for its delicacy and smooth texture. Well-known across the country, *Kurikinton* can be found in Gifu's western region of Tono, in other such as Ena or Nakatsugawa.

● **Publisher:** Tourism Promotion Division of the Gifu Prefectural Government  
2-1-1 Yabutamimachi, Gifu City, Gifu 500-8570 Japan  
● **Phone:** +81-56-272-1111 ● **E-mail:** [t1335@pref.gifu.jp](mailto:t1335@pref.gifu.jp)  
● **Website:** <http://travel.kankou-gifu.jp/>  
● **Facebook:** Gifu Crossroads ● **Supervision:** Nagoya Mosque